

アジアの福祉

担当教員 高嶺 豊

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

アジア地域は今経済的に驚異的な成長を続けているが、しかし、まだその多くは、開発途上の国である。これらの国々の社会福祉及び社会開発の取組を理解することにより、日本にいる我々がどのようにその国々に係わっていかかを学ぶ。さらに、アジア諸国との関係がさらに重要性を増す中、これらの国々の社会福祉の状況を知り、その発展に協力することは、日本の将来にとって、必要不可欠であることを理解する。

【授業の展開計画】

社会福祉と社会開発の定義、タイの社会福祉、地域開発とマイクロファイナンス（クレジット）、バングラデッシュと社会起業、社会起業とは、インドの社会福祉、貧困者をターゲットにしたビジネス、南インドの障害者自助団体の構築、国際金融機関と開発問題、環境問題と開発等。

講義（視聴覚教材）、グループワーク、グループディスカッション等により授業を進める。

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、グループディスカッションへの参加、レポート

【テキスト】

適宜ハンドアウトを配布する。

【参考文献】

適宜ハンドアウトを配布する。

医療福祉論 I

担当教員 樋口 美智子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・医療保険制度の概要、保健医療サービスの概要について理解する。
- ・保健医療分野におけるソーシャルワーカーの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得する。
- ・保健医療サービスにおける多職種協働について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医療福祉の概念、医療における尊厳と権利
2	医療ソーシャルワークの歴史と動向
3	医療政策の動向、国民の健康と疾病、医療保険制度・診療報酬制度の概要
4	保健医療サービスの概要、医療施設の機能
5	保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、医療ソーシャルワーカーの業務と役割
6	医療ソーシャルワーカーの業務指針、医療ソーシャルワーク業務の実際
7	医療ソーシャルワーカーの援助過程、記録
8	患者・家族とのコミュニケーション
9	保健医療サービス関係者との連携、チーム医療における医療ソーシャルワーカーの役割
10	救急医療における医療ソーシャルワーカーの役割
11	小児医療における医療ソーシャルワーカーの役割
12	在宅医療における医療ソーシャルワーカーの役割
13	緩和医療における医療ソーシャルワーカーの役割
14	地域医療における連携、多職種と協働する地域活動
15	これからの保健・医療・福祉サービスの動向
16	(補講・試験・追試験)

【履修上の注意事項】

- ・医療ソーシャルワーカー志望者は、履修が望ましい。
- ・医療保険制度、介護保険制度の復習をしておくこと。

【評価方法】

- ・出席日数、授業への参加姿勢、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

- ・特に指定はしない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

「MINERVA社会福祉士養成テキストブック 第15巻保健医療サービス」、「改訂保健医療ソーシャルワーク実践」、「保健医療の専門ソーシャルワーク 業務指針の基本的解説」、「日本の医療ソーシャルワーク史」

介護概論

担当教員 長嶺 利子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

少子・高齢社会の進展に伴い介護問題は、社会福祉事業の重要な課題とされる。そのことから、社会福祉構造の変遷と介護の推移、介護問題（フォーマル・インフォーマル）や介護の専門性・理論性・原理性と要介護者の理解、生活（QOL, 自立）支援並びに関係職種・関係機関とのチームワーク・ネットワークの関わりや地域福祉との今後の課題等々を理解し、人間福祉に関する専門知識、援助態度を養う。

【授業の展開計画】

テキストによる講義主体とする。テキストにない事業内容については、プリント資料をもって行う。介護の基本・地域保健・福祉の理解を深めるため、課題提出とグループワークやミニテストを行う。

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション・学生理解（アンケート）、社会福祉士が介護を学ぶ意義
2	介護の目的（原則、倫理、自立に向けた介護、尊厳を支える介護）
3	介護の歴史、介護提供の場、介護の対象
4	介護と社会福祉、家政、看護・医療との関係
5	援助関係の基本（援助関係の理解、利用者の理解）介護関係維持のための技法（観察）
6	コミュニケーションの意義、対象者の状況に応じたコミュニケーション技法
7	記録と情報の共有、目的、留意点、種類等、医療・看護・福祉専門職との連携
8	介護過程の意義、目的、必要性、基本的要素や介護過程の展開方法等
9	介護過程の実際（情報の収集、情報の分析と解釈、介護計画立案、実施、評価）
10	利用者の自立支援と介護、住生活環境の整備と介護
11	社会生活を維持するための支援、健康な生活習慣づくりへの支援
12	医療的対応が必要な利用者への介護、緊急事故時の対応
13	介護家族への支援、福祉用具の活用、終末期の支援
14	障害の理解と対応（視覚・聴覚に障害のある人への理解と対応）
15	障害の理解と対応（精神障害者・認知症高齢者への理解と対応）
16	学期末試験（筆記）

【履修上の注意事項】

テキスト持参、予習・復習、提出物、目的意識を持って参加する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の得点、課題及びレポートを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉学習双書2013《第15巻》「介護概論」 社会福祉法人 全国社会福祉協議会 2013年

【参考文献】

あたらしい介護 講談社 2007年、新介護福祉士養成講座15「資料編」中央法規2009年
介護福祉士初任者のための実践ガイドブック日本介護福祉士会初任者研修テキスト中央法規2007年

家族社会学 I

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」とは何かを考え、どのようにして現在の家族が構築されたのかを考える。「家族なるもの」と「家族であること」について考察する。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス、家族とは何か
2. 家族の構造
3. 子どもの誕生
4. ロマンティック・ラブ
5. 母性愛という神話
6. イブからマリアへ
7. アリスの服が着たい
8. 大草原の小さな家と太ったインディアン
9. 男らしいってわかるかい
10. 近代家族と老い
11. 近代家族とアディクション
12. 資本主義とアディクション
13. ダブルバインドと家族内コミュニケーション
14. 家族の回復のためのコミュニティ
15. これからの家族
16. テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。なお講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

家族社会学Ⅱ

担当教員 具志堅 邦子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「家族」を社会的に分析する力をつける。特に「日本」の家族と「沖縄」の家族に焦点をあて、これからの家族を考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス、家族を考える視点
2	現代家族論…日本の社会は家族をどう社会学化していったか
3	日本と沖縄の家族の構造の差異
4	日本におけるイエと新中間層
5	近代沖縄における家族と位牌継承慣行
6	日本における消費社会と家族
7	沖縄における消費社会と家族
8	日本における郊外と家族
9	沖縄における郊外と家族
10	アロマザリングと守姉
11	イハイとヒヌカン
12	アディクションと家族…『新世紀エヴァンゲリオン』
13	酔いがさめたら、うちに帰ろう。
14	ケアすること/労働すること…『千と千尋の神隠し』
15	これからの家族
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回の積み重ねが重要です。なお講義時に配布する資料は次回に持ち越して配布しません。

【評価方法】

出席、リアクション・ペーパー、テスト等から総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

外国語演習 I

担当教員 一兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき、原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって、原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	精神保健
3	精神保健
4	精神保健
5	心理アセスメント
6	心理アセスメント
7	カウンセリング
8	カウンセリング
9	カウンセリング
10	集団心理療法
11	集団心理療法
12	集団心理療法
13	虐待、DV、神話
14	虐待、DV、神話
15	全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

Gelso, C. J. & Fretz, B. R. (1992) Counseling Psychology. Harcourt Brace College Publisher.
その他、参考文献は講義の中で紹介する。

外国語演習 I

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

本授業では、面接技法に関する心理学の入門書（英文）を読み、その文法や用語の用い方を理解して、語学力をつけることを第一の目的とする。まず、指定された箇所をグループで調べ、その内容を全体に発表する。その後、全体でのディスカッションを通して、その内容のさらなる理解を深める。

英語の面白さに触れるとともに、カウンセラーの面接技法についても理解を深めてもらいたい。語学の授業なので、授業への積極的な参加を期待したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、グループ編成
2	Introduction to Helping (3頁～19頁)
3	Introduction to Helping (20頁～30頁) 第1グループ担当
4	An Overview of Helping (31page to 45page) 第2グループ担当
5	An Overview of Helping (45page to 57page) 第3グループ担当
6	第1回小テスト Ethical Issues in Helping(59page to68) 第4グループ担当
7	Ethical Issues in Helping(68page to76page) 第5グループ担当
8	Overview of the Exploration Stage(79page to 89page) 第6グループ担当
9	Overview of the Exploration Stage(89page to 96page) 第7グループ担当
10	第2回小テスト Attending, Listening, and Observing Skills(97page to108page) 第8グループ担当
11	Attending, Listening, and Observing Skills(108 page to119page) 第9グループ担当
12	Skills for Exploring Thoughts(121page to130page) 第10グループ担当
13	Skills for Exploring Thoughts(130page to140page) 第11グループ担当
14	第3回小テスト Skills for Exploring Feelings(141page to153page) 第12グループ担当
15	Skills for Exploring Feelings(153page to166page) 第13グループ担当
16	試験

【履修上の注意事項】

グループでの課題の発表、全体でのディスカッション等もあり、授業への参加を重視する。

【評価方法】

試験、小テスト3回、グループでの課題の和訳・発表、トピック（気がついた点や疑問点）の提出、ディスカッションへの参加度、出席状況等を総合的に考慮して評価する。5回以上欠席した場合は、単位は与えられない。20分以上遅刻した場合は欠席扱いとする。また、遅刻の場合は、3回で1回欠席とする。

【テキスト】

Clara E. Hill 2010 『Helping Skills-Facilitating Exploration, Insight, and Action』 Third Edition, American Psychological Association, Washington, DC

【参考文献】

必要に応じて、授業の際に紹介する。

外国語演習 I

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 一兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

外国語演習Ⅰで学んだものを元に、英語で書かれた研究論文を読みこなすことができることがこの授業のねらいである。さらに、最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	心理学関連トピック 原書講読
3	心理学関連トピック 原書講読
4	心理学関連トピック 原書講読
5	心理学関連トピック 原書講読
6	DSM-Ⅳ 原書講読
7	DSM-Ⅳ 原書講読
8	DSM-Ⅳ 原書講読
9	DSM-Ⅳ 原書講読
10	研究論文 原書講読
11	研究論文 原書講読
12	研究論文 原書講読
13	研究論文 原書講読
14	研究論文 原書講読
15	全体のまとめ
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題及び小テストを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。

【参考文献】

American Psychiatric Association. (1994). Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: Fourth Edition. その他、参考文献は講義の中で適宜紹介する。

外国語演習Ⅱ

担当教員 柳田 正豪

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

外国語演習Ⅱ

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

学習心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

学習とは、経験によって生ずる比較的永続的な行動の基礎過程の変化である。本講義では、学習心理学の歴史や現状について概説した上で、基本的な学習形態の1つである古典的条件づけを中心に、基本原理や関連する基本的概念及び最近の理論的問題について概説する。また、臨床への応用や日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。また、学習心理学と関連の深い記憶研究についても概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション/学習心理学とは
- 2 学習心理学の歴史と心理学の中での位置づけ
- 3 //
- 4 記憶の情報処理モデル（感覚記憶・短期記憶・長期記憶）
- 5 //
- 6 記憶の定着（リハーサルと符号化）
- 7 記憶の忘却
- 8 生得的行動パターン
- 9 馴化の基本原理
- 10 古典的条件づけの基本原理
- 11 //
- 12 CS-USの随伴性及び高次条件づけ
- 13 古典的条件づけの臨床への応用
- 14 //
- 15 古典的条件づけにおける生物学的制約 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学 I、II を続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が 2 / 3 に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著 磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学習心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、基本的な学習形態の1つであるオペラント条件づけに関して概説する。また、より洗練された学習形態である観察学習についても概説する。それぞれにおいて基本原理や基本概念、臨床への応用や、我々の日常生活との関連性についても理解を深めることを目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 オペラント条件づけの基本原理
- 3 "
- 4 オペラント条件づけの生物学的制約
- 5 "
- 6 強化スケジュール
- 7 "
- 8 回避と罰
- 9 "
- 10 オペラント条件づけの理論と研究
- 11 "
- 12 模倣理論
- 13 パーソナリティ形成と観察学習
- 14 恐怖症や認知的発達と観察学習
- 15 観察学習の臨床への応用 16回目にテストを行う

【履修上の注意事項】

学習心理学Ⅰを先に履修することが望ましい。

【評価方法】

期末テストの結果により評価する。テストは持ち込み不可。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

「メイザーの学習と行動」 ジェームズ・E・メイザー著 磯 博行/坂上貴之/川合伸幸 訳 二瓶社
「コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理」 実森正子/中島定彦 著 サイエンス社

学校臨床心理学

担当教員 牛田 洋一

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や学校コミュニティへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 学校臨床心理学とは
2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）
3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）
4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学
5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコジストとスクールカウンセラー
6	学校コミュニティにおける緊急支援（1）
7	学校コミュニティにおける緊急支援（2）
8	学校臨床最前線から（1）いじめ
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場
10	学校臨床最前線から（1）不登校
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為
12	学校での今日の問題（1）：発達障害
13	学校での今日の問題（2）：選択性緘黙
14	学校での今日の問題（3）：その他の問題
15	まとめ：学校臨床心理学とは
16	試験

【履修上の注意事項】

臨床心理学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の単元ごとに資料を配付する予定である。

【参考文献】

講義時に適宜紹介していく。

基礎演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学の講義・演習で求められるレポート作成やゼミ発表等々の方法を学ぶと共に、大学の勉強の特徴について理解する。

ゼミメンバーどおしが高めあい、互いに成長しあえる環境の中で、視野を広げる場になることを期待する。

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

本科目は、学生に求められる基礎的な学習方法および発表方法を共に学ぶ場です。ひとりひとりが積極的にゼミ活動に参加し、学ぶ姿勢を身につけていきましょう

【評価方法】

出席、ゼミ活動への参加度、レポートなどの提出状況、

【テキスト】

随時、資料を配付する予定

【参考文献】

基礎演習

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

【授業の展開計画】

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

【履修上の注意事項】

調べ学習、発表、グループワーク、ボランティア実習などさまざまなゼミ活動を行っていく。

【評価方法】

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

【参考文献】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

基礎演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」から引き続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。以上8つの力を総じて、初年次で大学生のための基礎力修得を目標とする。

【授業の展開計画】

基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。

- ①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。
- ②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。
- ③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。
- ④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。
- ⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。
- ⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。
- ⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。

また、基礎演習では2年次の専門演習に向けたオリエンテーションや、桃原ゼミ2～4年次との親睦交流および情報交換の場をつくり、ゼミが大学生活の拠り所になるようなプログラムも予定している。

【履修上の注意事項】

フレッシュマンセミナーにおいて、桃原ゼミを履修した学生のみが登録できることを原則とする。

【評価方法】

以下の構成で総合的に評価する。出席時数（30%）、受講態度・グループ学習および発表への取り組み姿勢（30%）、グループおよび個人に課せられた課題の内容（40%）。

【テキスト】

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

【参考文献】

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

基礎演習 A

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。
大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。
基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
 - 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
 - 3、レポートの書き方についてのワーク
 - 4、大学で「学ぶ」とは
 - 5、キャリア形成についてのワーク
- 他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この演習では、大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、聞いたことや調べたことを文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、相手の意見を聞き討論する力などである。ゼミ生全員で1つのテーマについて語り合ったり、個別テーマを設定してレポートを書き、発表したりする機会を通して学ぶことの面白さを発見しながら、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力を修得していきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前・後期を通じて、大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主になります。大学生としての学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などがあげられます。

ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの力を身につけましょう。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習 A

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とする。前期は大学で学ぶための基礎力を身につけるためのゼミ活動が主となる。学びの基本的なスキルとは、必要な情報を探し、収集する力、文献を読む力、文章を書く力、自分の考えを発表する力、討論する力（相手の意見を良く聞き、自分の意見をきちんと述べる）、などである。ゼミの参加者全員で、色々なテーマについて、読み、書き、考え、発表し、話し合い、主体的に取り組みながら、学びの基礎力を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストはとくに指定しない

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 前堂 志乃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、大学生活への適応支援と大学で学ぶための力（基本的スキル）と心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけることを目的とする。

後期は、大学で学ぶための力をさらに高めていく。特に、心理学の知識と日常を結びつけて考える課題に取り組むゼミ活動が主となる。前期に身につけた学びの力を活用し、心理学の主要なテーマについて、調べ、読み、考え、話し合い、書き、発表する。ゼミの参加者全員で、課題に主体的に取り組むことで、大学生活への適応を促し、学ぶ力を高め、心理学と日常を結びつけて考える視点を身につけていく。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明する。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは、特に指定しない。

【参考文献】

参考文献は、講義時に適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 平山 篤史

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とします。大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。テーマに対する自分自身の問題意識や疑問をもち、それを明らかにするために必要な情報を集め、自分で考え、検討し、それをまとめ上げ、発表することも含めたものをさします。基礎演習では、「学ぶ」ための基本的スキルを習得し、「学ぶ」ことの面白さを体験することを目指します。特に、基礎演習 B では、A の「書く」力に加えて、心理学の重要用語を取り上げて「調べる」「まとめる」「発表する」力をつけることを目指します。

【授業の展開計画】

講義計画については、初回の講義のときに説明する。
以下のプログラムを企画している。

- 1、コミュニケーションスキルを身につけるためのワーク
- 2、情報収集・まとめる力・発表する力を身につけるためのワーク
- 3、レポートの書き方についてのワーク
- 4、キャリア形成のワーク

他のゼミとの合同ゼミも企画している。

【履修上の注意事項】

基本的に毎回出席することを原則とする。受身的ではなく、積極的に演習に参加する態度を求める。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題提出・発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

基礎演習 B

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、大学生活への適応支援と大学で学ぶための基本的なスキルを身につけることを目的とします。前期の学びを通して大学への適応力と大学で学ぶための基礎力を身につけてきていると思われます。後期のゼミでは、心理学の理論や用語、思考法を用いて、日常の心理学的現象を説明する力を身につけます。具体的には、個別ゼミでの調べ学習および発表会を通して、心理学理論を日常の心理現象に適用する課題と、逆に、日常の心理現象から心理学理論を導く課題、この2種類をグループワークを通して学んでいきます。

【授業の展開計画】

講義計画については初回の講義時に説明します。

【履修上の注意事項】

基礎演習の登録に関しては、オリエンテーション時の説明を受けてから登録するようにしてください。

【評価方法】

- ・ゼミへの参加度、課題発表、レポート等の課題提出などを総合的に判断し、評価します。
- ・遅刻や欠席等、出欠状況が特に重視されます。
- ・ライティング課題など、きちんと課題をこなし、提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。

【参考文献】

参考図書は講義時に、適宜紹介します。

基礎演習 B

担当教員 井村 弘子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期で身につけた基本的な学習スキルを活用して、さらに学びを深めていくことを目的とする。後期は、心理学の理論・学術用語をわかりやすく解説したり、日常生活で体験する出来事を心理学の理論・学術用語で説明したりするような課題を通して、必要な情報を収集・検索する力、文献を読みこなす力、調べたことをまとめたり、発表したりする力、相手の意見を聞き討論する力などを育成する。これらの課題を通して、心理カウンセリング専攻学生としての基本的・総合的な学びの力をより向上させていきたい。

【授業の展開計画】

演習の展開計画については、初回時に提示・説明する。
心理カウンセリング専攻全体での合同ゼミを2～3回含む。

【履修上の注意事項】

毎回出席が原則である。積極的に演習に参加する態度・姿勢が大切である。

【評価方法】

出席状況、演習への参加態度、課題発表の仕方、レポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜紹介する。

キャリア・カウンセリング

担当教員 大兼 千津子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	登録・オリエンテーション
2	キャリア発達の各アプローチ
3	ドナルド・スーパー 「ライフ・スパン/ライフ・スペース理論的アプローチ」
4	ジョン・ホーランド 「6角形モデル」
5	ジョン・クルンボルツ 「学習理論」「社会的学習理論」
6	ハリィ・ジェラット 「意思決定アプローチ」
7	エドガー・シャイン 「組織心理学」「キャリア・アンカー」
8	ナンシー・シュロスバーグ 「トランジッション」
9	ダグラス・ホール 「関係性アプローチ」
10	サニィ・ハンセン 「統合的生涯設計」
11	マーク・ザビカス 「キャリア構築理論」
12	キャリア教育
13	キャリア教育
14	産業カウンセリング
15	産業カウンセリング
16	

【履修上の注意事項】

遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯使用不可。意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

出席状況，受講態度，課題を総合的に評価する。

【テキスト】

渡辺 三枝子 (2009) 「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」
ナカニシヤ出版

【参考文献】

Richard N Bolles (2011) What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers

教育心理学 I

担当教員 一竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育心理学」とは、「教育の対象となる人々の発達を促す働きかけ」に関する心理学の領域である。ここでは、①人々の発達の特徴、②発達を促す効果的な働きかけ、③発達に困難を抱える人々への支援、などについて、考えることが重要なテーマとなる。本講義（教育心理学 I）では、学習や生活の中での「やる気」を中心に、その発達の特徴と効果的働きかけについて皆で考えることを主な目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション : 前期の授業の概要説明
2	教育心理学とは (教科書 第1章)
3	教育心理学の歴史と研究方法 (教科書 第1章)
4	発達とは何かと発達を規程する要因について (教科書 第2章)
5	発達段階と発達課題 (教科書 第2章)
6	欲求と動機づけ (教科書 第3章)
7	学習意欲 (内発的動機づけ, 外発的動機づけ) (教科書 第3章)
8	動機づけと無気力 (教科書 第3章)
9	学習の基礎としての条件づけ (教科書 第4章)
10	学習における記憶の役割 (教科書 第4章)
11	問題解決としての学習 (教科書 第4章)
12	学習指導の理論 (教科書 第5章)
13	協同学習と学習の個性化 (教科書 第5章)
14	教育評価の意義と目的 (教科書 第6章)
15	教育評価の考え方と方法 (教科書 第6章)
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- ・この講義は教職科目ではないので、注意すること。
- ・受講にあたっては積極的な姿勢で臨むこと。

【評価方法】

小レポートの提出, 課題の内容, 期末テストの得点, をもって総合的に評価する。

【テキスト】

『たのしく学べる最新教育心理学～教職にかかわるすべての人に』 桜井茂男 (編) 2003 図書文化
 ※この教科書は、後期の「教育心理学 II」でも使用します。

【参考文献】

講義の中で適宜, 紹介する。

教育心理学Ⅱ

担当教員 一竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育心理学」とは、「(教育の)対象となる人々の発達を促す働きかけ」に関する心理学の領域である。ここでは、①人々の発達の特徴および②発達を促す効果的な働きかけ、③発達に困難を抱える人々への支援、などについて、考えることが重要なテーマとなっている。本講義(教育心理学Ⅱ)では、個人の特性(パーソナリティや社会性)について学んだ後、学級の中での対人関係や、子どもの心理的問題について皆で考えることを主な目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期の授業に関する概要
2	知的能力の発達 (教科書 第7章)
3	知能力の測定 (教科書 第7章)
4	創造性 (教科書 第7章)
5	パーソナリティの理論 (教科書 第8章)
6	パーソナリティの形成 (教科書 第8章)
7	向社会的行動と役割取得の発達 (教科書 第9章)
8	道徳性の発達 (教科書 第9章)
9	親子関係や仲間関係の発達 (教科書 第9章)
10	学級の心理学 (教科書 第10章)
11	教師との関係、子ども同士の関係 (教科書 第10章)
12	子どもの不適応とストレス (教科書 第11章)
13	生徒指導の重要課題(不登校・いじめ・非行) (教科書 第11章)
14	自閉症スペクトラム障害 (教科書 第12章)
15	学習障害と注意欠陥多動性障害 (教科書 第12章)
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

- ・この講義は教職科目ではないので、注意すること。
- ・「教育心理学I」を履修済みであることが望ましい。

【評価方法】

- ・出席、授業態度、小レポート、テストで総合評価する。

【テキスト】

・桜井茂男(編) 2003 たのしく学べる最新教育心理学 教職にかかわるすべての人に 図書文化 ISBN978-4-8100-3419-6

【参考文献】

- ・講義の中で紹介する。

ケアマネジメント論

担当教員 安村勤（8回）、溝口哲哉（7回）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域における相談支援体制が構築されるなか、計画相談の導入、退院促進支援、地域生活定着支援など、ケアマネジメントによる支援構築の重要度が近年さらに増してきている。この講義では、ケアマネジメントとは何か、どのような実践理論にもとづいて展開される支援なのかを、日常地域において実践している複数の相談支援専門員を講師に具体的なレベルで講義を行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の導入（溝口哲哉）
2	ケアマネジメント総論（溝口哲哉）
3	ケアマネジメント総論（溝口哲哉）
4	ケアマネジメント総論（溝口哲哉）
5	ニーズアセスメント（溝口哲哉）
6	ニーズアセスメント（溝口哲哉）
7	ニーズアセスメント（溝口哲哉）
8	プランニング（安村勤）
9	プランニング（安村勤）
10	プランニング（安村勤）
11	モニタリング（安村勤）
12	モニタリング（安村勤）
13	モニタリング（安村勤）
14	資源開発と自立支援協議会（安村勤）
15	資源開発と自立支援協議会（安村勤）
16	まとめとテスト（安村勤）

【履修上の注意事項】

この講義は複数名の講師で担当していくため、各講師がそれぞれの講義内容に基づいて課題を課していき、それを評価の対象とする。

【評価方法】

出席、講義中に行われる課題・グループワークへの参加態度、各講師から出される課題の提出などを総合的に加算して評価を行うものとする。講義の進行に応じて学期中および学期末試験等が行われ評価の対象となる。

【テキスト】

講義のなかで指定する。

【参考文献】

講義のなかで紹介する。

健康スポーツ科学論

担当教員 一笹澤 吉明

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

健康・スポーツ科学に関する基礎的理論、すなわち、健康、体力、肥満・痩せ、栄養、運動・トレーニング等を学び、自身や家族の生涯に亘る健康管理に役立て、将来、健康・スポーツ関連の指導者としての実践に応用する基礎を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（スポーツ科学、健康科学に関する理論の必要性とその意義）
2	健康とは①（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
3	健康とは②（健康の背景、新健康フロンティア戦略、健康日本21）
4	適切な生活習慣①（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
5	適切な生活習慣②（生活習慣病、死の四重奏、メタボリックシンドローム、健康診断・保健指導）
6	肥満・痩せと生活習慣病（生活習慣病と肥満、肥満を解消する運動と食事）
7	健康・体力の維持増進①（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
8	健康・体力の維持増進②（体格・体力の測定評価、運動の仕組み、トレーニング）
9	競技スポーツのトレーニング①（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
10	競技スポーツのトレーニング②（競技スポーツの分類、専門的トレーニングの要素及び方法）
11	栄養と健康・スポーツ①（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
12	栄養と健康・スポーツ②（栄養とは、食生活の見直し、健康のための食事と健康）
13	運動・スポーツの安全性（体温調節、熱中症、ウォーミングアップ、ストレッチング）
14	運動・スポーツによる外傷、障害（スポーツ障害と予防、救命救急、応急処置）
15	女性・高齢者の健康とスポーツ（女性・高齢者の運動の重要性、女性、中・高齢者の生理的特徴）
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席状況（5回以上の欠席は単位取得不可とする）、レポート、期末試験、授業態度を総合評価する

【テキスト】

健康・スポーツ科学の基礎 出村慎一著 杏林書院

【参考文献】

講義で適宜紹介

権利擁護と成年後見制度

担当教員 照屋 俊幸

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

高齢者虐待や高齢者を狙い打ちにした消費者被害が起こっている。社会福祉の専門家を志す人は、このような出来事に心情的に思いを寄せるだけでなく、現実には、高齢者の利益を守る活動に出る必要がある。そのためには、認知症高齢者等の権利擁護の担い手としては、どのような者がいるのか、それぞれどのような役割を果たすことが期待されているのかを知らなければならない。とりわけ成年後見制度の仕組みと狙いを理解することが重要である。この講義では、ビデオ上映や現場で活躍する人の生の声を聞き、具体的な場面をイメージしながら法律制度の仕組みを「考えて」もらうことを主眼とする（そのため、講義では、受講生に対し講師からの質問が日常的

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	各回の講義内容の予告等、使用テキスト、受講上の注意点等
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	期末試験
16	試験問題の解説等

【履修上の注意事項】

【評価方法】

試験の結果を最重視する。ただし、講義の前半で実施される試験の結果は、評価の対象としない。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 『権利擁護と成年後見制度』（第2版）、中央法規

【参考文献】

芸術療法

担当教員 中山 さおり

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法の方法です。「芸術」というと人によっては高尚なものをイメージするかもしれませんが、子どもが絵をかき歌い工作することを楽しむような、人の自然な活動を生かしていこうとするものです。芸術療法には多くの種類がありますが、本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味、非言語的な人とのやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、芸術療法概説①
2	芸術療法概説②
3	絵画療法 ①
4	絵画療法 ②
5	絵画療法 ③
6	絵画療法 ④
7	絵画療法 ⑤
8	コラージュ療法 ①
9	コラージュ療法 ②
10	コラージュ療法 ③
11	コラージュ療法 ④
12	詩歌療法 ①
13	詩歌療法 ②
14	詩歌療法 ③
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・実習では共同作業や話し合いを行うことがあります。他学生の作品を批判したり軽んじたりせず、肯定的に受けとめあい、ともに楽しむ態度を望みます。
- ・文房具や画材の持参を求めることがあります（サインペン、クーピーや色鉛筆など彩色できるもの、はさみ、のり、古雑誌など。講義で説明します）。
- ・授業の展開計画は適宜変更する可能性もあります。なお抽選となった場合は4年次より優先して行います。

【評価方法】

授業への参加姿勢、実習時のミニレポート、期末試験を総合的に評価します。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

授業で紹介していきます。

現代社会とジェンダー

担当教員 一知念 ウシ

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

現代社会と福祉

担当教員 岩田 直子、保良 昌徳

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、「社会福祉」という実践そして学問としての営みを理解するための基本的パラダイムの構築を目的とする。福祉をめぐる原理・倫理の理解、福祉政策・制度の歴史とその意味、福祉実践と制度の課題、福祉実践への関連法の与える影響などをテーマに講義を組み立てていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義全体の説明・注意事項等	17	社会福祉提供システム
2	社会福祉とは何か（専門職なのか？）	18	地域福祉のパラダイムと実践
3	福祉の思想と哲学（市場原理と福祉）	19	社会福祉基礎構造と福祉実践
4	福祉の思想と哲学（自己決定と支援の哲学）	20	福祉サービス提供の意味するもの
5	福祉政策の理論と実際（行政と福祉）	21	資源の構築に向けて
6	福祉政策の理論と実際（民間事業所と資源）	22	専門家アイデンティティの功罪
7	福祉政策の理論と実際（福祉サービス）	23	援助の実際（直接対人援助）
8	福祉政策の発展過程（国外の歴史から）	24	援助の実際（集団援助と地域への介入）
9	福祉政策の発展過程（国内の歴史から）	25	援助の実際（行政との対峙と協働）
10	福祉サービス提供のパラダイム	26	
11	法制度の実践への影響	27	
12	社会福祉用語の言説（ナラティブ）	28	
13	政策としての福祉（レジームの比較）	29	
14	政策としての福祉（諸制度の比較）	30	後期テスト
15	前期テスト	31	
16	福祉が提供するもの・支援するもの		

【履修上の注意事項】

1. 社会福祉問題の動きに関心を持ち、常に情報の収集に努めること。
2. レポート作成時に、他者の文章を無断で使用したことが発覚した場合は評価の対象としない。
3. 出欠確認・試験等において不正が確認（事後であっても）された場合は「不可」とする。

【評価方法】

出席、課題提出、授業態度、講義中の課題の提出にもとづき評価する。

【テキスト】

1. 『現代社会と福祉』中央法規
2. 必要に応じて資料等を配布・配信する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

更生保護制度

担当教員 比嘉 昌哉、他

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

法を犯した者が償いを終えて生きる場は、社会・地域であり、その人たちの立ち直りは地域で完結する。更生保護とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、地域生活を定着してもらうための支援あり方である。この講義では、那覇保護観察所からの講師派遣協力のもと、司法機関・制度、更生保護施設、精神科医療における医療観察制度、就労支援を含む地域生活支援のための支援機関と更正保護行政について触れていく。

【授業の展開計画】

この講義は、1単位全8回の講義を予定している。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・更正保護制度とは
2	更生保護制度の概要Ⅰ：刑事司法の中の更生保護、仮釈放など
3	更正保護制度の概要Ⅱ：保護観察、生活環境の調整など
4	更正保護制度の概要Ⅲ：更生緊急保護、犯罪被害者施策など
5	更生保護制度の担い手と関係機関・団体との連携
6	医療観察制度の概要
7	更正保護の実際と今後の展望
8	講義のまとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。毎回講師が異なるので質問等があれば、積極的に尋ねること。新聞等で取りあげられる更生保護に関する記事には関心をもち、可能ならばスクラップすることを望む。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

『新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度(第3版)』、中央法規。

【参考文献】

授業時に適宜示します。

行動療法

担当教員 上田 幸彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について概説する。認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	行動療法とは
2	行動療法の歴史
3	行動療法の基礎となる学習理論
4	行動療法の技法①系統的脱感作法
5	事例
6	行動療法の技法②リラクゼーション法
7	行動療法の技法③暴露反応妨害法
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング
10	認知行動療法とは、
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み
12	認知行動療法の技法①：非機能的思考記録
13	認知行動療法の技法②：セルフモニタリング、思考停止法、他
14	アルコール依存の認知行動療法①
15	アルコール依存の認知行動療法②
16	テスト

【履修上の注意事項】

授業の事前準備として、参考文献は一読しておくこと。
 板書されたことはもちろん、授業中に話したことは、必ずノートに取ること。
 授業中の私語、携帯電話の使用は当然、認められない。

【評価方法】

成績は、授業への参加状況、学年末試験によって総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

行動療法 内山喜久雄 著 日本文化科学社 1700円
 認知行動療法の理論と実際 岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 共編 培風館 3700円

高齢者に対する支援と介護保険制度

担当教員 金城 満（前期）、安次富 郁哉（後期）

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

前期において、高齢者の特性等の理解や高齢者を取り巻く社会的環境の理解、また、高齢者問題の意味や現状等を明確に把握する。さらに、老人福祉法と老人福祉施策について学ぶ。後期では、高齢社会の現状と今後どのように変化していくか、また、高齢社会にともなう問題となる要介護高齢者及びその家族に対する支援のあり方、2000年にスタートした介護保険制度について理解し、説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス	17	介護保険制度① 全体像 改正介護保険法
2	高齢者を理解する① 身体と心の変化	18	介護保険制度② 改正介護保険法
3	高齢者を理解する② 高齢者の生活	19	介護保険制度③ 要介護認定のプロセス
4	少子高齢社会と高齢者を取り巻く諸問題	20	介護保険制度④ 要介護認定のプロセス
5	老人福祉法①	21	介護保険制度⑤ サービス体系 居宅
6	老人福祉法②	22	介護保険制度⑥ サービス体系 居宅
7	老人福祉法③	23	介護保険制度⑦ サービス体系 施設
8	老人福祉法④	24	介護保険制度⑧ サービス体系
9	老人福祉法⑤	25	介護保険制度⑨ 介護予防サービス
10	老人福祉施策①	26	介護保険制度⑩ 地域支援事業
11	老人福祉施策②	27	介護保険制度⑪ 地域密着型サービス
12	老人福祉施策の流れ③	28	介護保険制度⑫ 社会資源連携
13	老人福祉施策の流れ④	29	介護保険制度⑬ 社会資源連携
14	老人福祉施策の流れ⑤	30	後期振り返り
15	前期振り返り	31	後期試験
16	前期試験		

【履修上の注意事項】

本講義はわが国における高齢社会および高齢者を取り巻く現状を十分に理解することができる。単に受験資格科目としてではなく、高齢者を知る、高齢社会を知る、介護保険制度を知るという今高齢社会に生きる国民の基本的な知識を身につけるという認識で受講してもらいたい。本講義は前期を金城満（非常勤）、後期を安次富郁哉が担当する。

【評価方法】

前期、後期に実施する試験によって評価する。なお、出席状況も評価の対象とする。

【テキスト】

「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規 社会福祉士養成講座

【参考文献】

「国民衛生の動向」「高齢社会白書」などを参考書として指定するが、その他については講義の中で随時紹介する。

国際関係論

担当教員 ーダググラス ラミス

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現在の国際関係は、いくつかの前提に成り立っている。そしてそれらは、「前提」である以上、あまり議論、疑問、検証の対象にはならない。この授業は、それぞれの前提を取り上げて、改めて考えたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	戦争論 趣旨の説明
2	戦争論 ホッブスの戦争論
3	戦争論 ホッブスの戦争論
4	戦争論 ホッブスの戦争論
5	正義の戦争とはなにか 正戦論
6	正義の戦争とはなにか 正戦論
7	「テロに対する戦争」とはなにか 「テロ」について
8	「テロに対する戦争」とはなにか 「テロ」について
9	ジョージ・オーウェルが見た近代戦争 小説『1984年』を考える
10	ジョージ・オーウェルが見た近代戦争 小説『1984年』を考える
11	ジョージ・オーウェルが見た近代戦争 小説『1984年』を考える
12	非暴力論 ガンジーの思想
13	非暴力論 ガンジーの思想
14	非暴力論 ガンジーの思想
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

学期末試験、など

【テキスト】

ホッブス『ラヴァイアサン』（岩波文庫）、オーウェル『一九八四年』（新訳版、早川文庫）、ラミス「正戦論」（配布）、ラミス『ガンジーの危険な平和憲法』（集英社）

【参考文献】

コミュニティ心理学

担当教員 大嶺 和歌子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①我々の生活で起きる問題をコミュニティという枠組みで捉えるコミュニティ心理学を紹介する。
 ②社会的文脈に人間存在を位置づけることで、人が本来もっている強さとコンピテンスを重視する。エンパワメント等を紹介し、問題解決への選択肢を拡げることがを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	コミュニティ心理学の理念①：コミュニティ心理学の定義と理念
3	コミュニティ心理学の理念②
4	人と環境の適合—生態学的アプローチ①
5	人と環境の適合—生態学的アプローチ②
6	予防：予防の種類・事例・倫理的問題
7	ストレスとレポートの書き方
8	中間試験
9	危機介入とコンサルテーション
10	ソーシャルサポートとセルフヘルプとコーピング
11	エンパワメント：定義
12	エンパワメント：具体例と批判
13	コミュニティ感覚と市民参加：コミュニティ感覚
14	コミュニティ感覚と市民参加：市民参加
15	理論と実践の連携
16	期末試験

【履修上の注意事項】

教科書必携

【評価方法】

中間試験はレポートを50点配分で行い、期末試験は穴埋め式のテストを50点配分で行う。
 中間試験と期末試験の得点を合算して評価を行う。評価＝中間試験（50点）＋期末試験（50点）
 出席は講義前に点呼等で行う。講義に5回以上欠席したら受験資格はない。

【テキスト】

植村勝彦 コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

社会科学研究法

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士として必要なレポート作成力を身につける。

【授業の展開計画】

本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に先輩の卒業論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（宿題あり。配布された卒業生の卒論コピーを読んでくること。）
2	宿題に出した卒論を解説
3	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか
4	社会的な出来事について「知る」方法（1）—リアリティの捉え方
5	社会的な出来事について「知る」方法（2）—文献調査のしかた
6	社会的な出来事について「考える」方法—どう情報を整理するか
7	社会的な出来事について「伝える」方法—効果的な論文執筆のルール（3～7週にかけて宿題あり。）
8	「今、自分が興味を持っていること」について1分スピーチ
9	文献調査～レポート作成の作業
10	文献調査～レポート作成の作業
11	文献調査～レポート作成の作業
12	文献調査～レポート作成の作業
13	文献調査～レポート作成の作業
14	文献調査～レポート作成の作業
15	授業の最後に期末レポート提出
16	期末レポート返却・講評

【履修上の注意事項】

授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。

【評価方法】

課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。

【テキスト】

適宜、配布する。

【参考文献】

朝日新聞社『勉強のやり方がわかる』AERA Mook ; 98、2004年。
今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。

社会学概論 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「社会学ってなに?」と考えると、すぐさま高校までの社会科を思い起こし拒絶感を抱く学生も少なくないはずだ。ところが、社会学とはこれまでの社会科の知識を一旦忘れても構わない。社会学は、自分自身が生きる日常世界に対して疑問や関心さえあれば誰にでも飛び込むことができる学問なのである。つまり「自分」なのである。「わたしって何者なのか、今この世の中でどう生きているのか/生かされているのか」という問いが大切なのだ。「自己」「他者」「自明性」について考える方向感覚を身につけていく作業プロセスそのものが、社会学であるともいえる。

【授業の展開計画】

講義の本題では教員からの発話が中心となるが、適宜、学生への発問や応答を求めることもある。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論 I への招待
2	社会学の基礎①—社会学の歴史
3	社会学の基礎②—社会的行為と社会の構造
4	権力論から読み解く社会学①—初級編：ヴェーバーを中心に
5	権力論から読み解く社会学②—基本編：欲望、行為、関係、制度
6	権力論から読み解く社会学③—フーコー I：視線と身体論
7	権力論から読み解く社会学④—フーコー II：規律と管理
8	現代社会を考える学習課題①
9	権力論から読み解く社会学⑤—応用編 I：sex、gender、sexuality
10	権力論から読み解く社会学⑥—応用編 II：行為の複数文脈性とカテゴリーの凝固
11	権力論から読み解く社会学⑦—応用編 III：高度経済成長と母性神話
12	権力論から読み解く社会学⑧—応用編 IV：アメリカ化と家父長制
13	権力論から読み解く社会学⑨—応用編 V：ナショナルな商品広告
14	権力論から読み解く社会学⑩—応用編 VI：精神安定剤としての TV ドラマ
15	現代社会を考える学習課題②
16	予備日

【履修上の注意事項】

後期開講の「社会学概論 II」から受講することも可能だが、「社会学概論 I」は II のベースとなる入門的な内容のため、なるべく I（前期）→II（後期）の順番で受講することが望ましい。

【評価方法】

出席状況と受講態度（20%）、個人またはグループでの学習課題の提出とその内容（20%）、期末のレポート課題提出とその内容（60%）。以上の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

社会学概論Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

前期の社会学概論Ⅰでは日常の中の権力性を読み解く視点を紹介するが、後期のⅡでは「資本」のメカニズムと社会構造との関係性について考えていく。ただし、社会学における「資本」とは経済的な意味だけではなく、社会関係や文化など広い意味での「価値」や「利益」のことを意味する。とくに言葉やイメージなどに依拠した文化資本の生産・消費などが、社会関係や経済的地位とどのように関連しているのか、日常に見受けられるその具体的な問題を提起していく。

【授業の展開計画】

講義の本題では教員からの発話が中心となるが、適宜、学生への発問や応答を求めることもある。

週	授 業 の 内 容
1	社会学概論Ⅱへの招待
2	「資本」とは何か—文化資本を中心に社会学から考える
3	「資本」の投資とく社会>というゲームへの参加
4	「資本」の投げ方①—演技論
5	「資本」の投げ方②—発話とボキャブラリー
6	「資本」の社会学的探究①—モノの消費と自己・他者Ⅰ：モノの記号的機能
7	「資本」の社会学的探究②—モノの消費と自己・他者Ⅱ：ヨコナラビの差異化戦略
8	「資本」の社会学的探究③—モノの消費と自己・他者Ⅲ：広告の記号論
9	現代社会を考える学習課題①
10	「資本」の社会学的探究⑤—記号とシンボル
11	「資本」の社会学的探究⑥—差別問題を考えるⅠ：差別といじめから考える
12	「資本」の社会学的探究⑦—差別問題を考えるⅡ：差別の諸形態
13	「資本」の社会学的探究⑧—メディア空間における自己と他者Ⅰ：記号のencodingとdecoding
14	「資本」の社会学的探究⑨—メディア空間における自己と他者Ⅱ：既存メディアとネット文化
15	現代社会を考える学習課題②
16	予備日

【履修上の注意事項】

「社会学概論Ⅰ」の未履修者が「社会学概論Ⅱ」から受講することも可能だが、ⅠはⅡの入門的な内容となるため、なるべくⅠ（前期）→Ⅱ（後期）の順番で受講することが望ましい。

【評価方法】

出席状況と受講態度（20%）、個人またはグループでの学習課題の提出とその内容（20%）、期末のレポート課題提出とその内容（60%）。以上の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

社会心理学Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見，理論，研究方法，ならびに，著名な研究者などについて概説していきます。テーマとしては，援助・攻撃行動，集団内・集団間関係，消費行動，文化や社会と人間心理の関係などを取り上げます。受講生の要望等もふまえながら，なるべく日常的な心理現象や話題を取り扱っていく予定です。そうした身近な事象を社会心理学的な視座から読み解いていくことを通して，科学的・客観的なものの見方，考え方を身につけていくことを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	人を助ける心とは？(1) ～援助行動の心理学～
3	人を助ける心とは？(2) ～ソーシャル・サポートの心理学～
4	人が傷つけられるとは？ ～社会的孤立と排斥の心理学～
5	人を傷つけるとは？ ～怒りと攻撃の心理学～
6	集団の機能と影響過程の心理学(1) ～集団の生産性とリーダーシップ～
7	集団の機能と影響過程の心理学(2) ～集団圧力・集団意思決定～
8	集団の機能と影響過程の心理学(3) ～集団間関係における差別と偏見～
9	コミュニケーションの心理学(1) ～非言語コミュニケーションを中心に～
10	コミュニケーションの心理学(2) ～メディア・コミュニケーション～
11	消費行動の心理学(1) ～広告・宣伝の心理学的分析～
12	消費行動の心理学(2) ～マーケティングの心理法則～
13	文化と人間心理・行動の関係とは？ ～文化の社会心理学～
14	社会心理学の応用と展開 ～面接場面の社会心理学的分析～
15	全講義内容のまとめと試験案内
16	学期末試験（予定）

【履修上の注意事項】

- ・第1回目講義では，履修登録や授業内容等に関する重要な説明を行います。欠席した場合，原則的に履修仮登録を取り消しますので，履修登録を希望する学生は第1回目講義に出席することが必須条件となります。
- ・学期末課題は，学期末試験（持ち込み不可）を予定していますが，レポート課題に変更することもあります。
- ・授業への積極的な参加（個人または全体に向けた質問や発言）を求めます。私語や途中入退室等も厳禁です。
- ・授業の展開計画は，講義内容を含め，変更する可能性があります。

【評価方法】

- ・成績評価は，出席状況15%，参加態度30%，学期末課題55%の内訳で，これらを総合評価して行います。ただし，いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- ・授業への参加態度は主に，毎回提出させるリアクションペーパーの質・量により評価します。
- ・学期末課題については，試験を実施する場合，参考書や資料等の持ち込みを一切不可として行います。レポート課題を課す場合は，授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず，毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

- 堀洋道・山本眞理子・吉田富二雄 編著（1997）. 新編 社会心理学 福村出版
 岡本浩一（1986）. 社会心理学ショート・ショート 新曜社
 ※上記の他，授業や配付資料を通して毎回，関連文献を紹介します。

社会調査の企画と設計

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、Ⅱではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行なう。実践的な社会福祉（ソーシャルワーク）、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）と質的調査の関連性、重要性を前提に内容を展開していきたい。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を発表してもらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査法Ⅱへの招待
2	標本抽出（サンプリング）の理論
3	サンプリングの種類
4	サンプリングの実際
5	質的調査の考え方
6	質的調査の種類
7	質的調査の諸注意
8	ドキュメント分析と観察法
9	生活史法とライフコース分析
10	面接とインタビューの技法
11	調査実施の際の諸注意
12	個別研究テーマの発表・提出
13	調査の企画と設計の提出
14	調査実施の効果とふりかえり
15	総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

講義形式で進めるが、調査票作成及び調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、及び活動には積極的に参加すること。

【評価方法】

出席状況、グループ参加状況、調査報告内容及び試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年

【参考文献】

特に指定はしないが、随時紹介する。

社会調査の基礎

担当教員 一住 直広

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の種類（量的調査と質的調査）
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

提出物（論文・レポートなど）、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年
 根本博司、他編著、『初めて学ぶ人のための社会福祉調査法』、中央法規、2001年
 天田城介、他編著、『社会調査の基礎』、中央法規、2009年、講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する

【参考文献】

ダレル・ハフ、『統計でウソをつく方法—数式を使わない統計学入門』、講談社（ブルーバックス）、1979年
 谷岡一郎、『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ—』文藝春秋（文春新書）、2000年
 好井裕明、『「あたりまえ」を疑う社会学—質的調査のセンス—』光文社（光文社新書）、2006年

社会調査の基礎

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

社会調査の基礎を学習する。同講義は社会福祉、保健福祉政策、まちづくり（地域計画）に関わる領域を題材にしながら内容を展開する。また、社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心に、アンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成など、プロトコルの作成から調査実施まで総合的に講義する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	社会調査とは？—その意義、目的—
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク
3	社会調査のための諸注意—社会調査の倫理と個人情報取り扱い—
4	事前の情報収集の方法 1
5	事前の情報収集の方法 2
6	社会調査の基本的な道具
7	研究テーマの設定法
8	調査の企画、設計
9	概念、変数、仮説の活用
10	量的調査—調査票作成の事前準備
11	質問文作成の基本ルール
12	選択肢作成の基本ルール
13	調査に関する様々な誤差 1
14	調査に関する様々な誤差 2
15	社会調査法 I の総括と課題発表
16	試験

【履修上の注意事項】

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが望ましい。

【評価方法】

レポート、試験、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

大谷信介、他編著、『社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房

【参考文献】

随時講義の中で紹介していく。

社会統計学 I

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。

この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について勉強し、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作成する力など統計を活用する力）の基礎を身につけることを目指します。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）
8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）
9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定、属性相関係数）
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定など具体的な独立性検定の方法）
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）
15	講義の振り返り・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由によって適切に対応する。

【評価方法】

出席 : 45点=1回:3点×15回（宿題提出をもって出席とする）
 レポート : 50点
 その他 : 5点（受講態度など）

【テキスト】

テキスト：廣瀬毅士 寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010
 また、適宜講義中にプリント、学習用電子データを配布する。

【参考文献】

- ・ハンス・ザイゼル『数字で語る—社会統計学入門』新曜社、2005
- ・ロウントリー『新・涙なしの統計学』新世社、2001
- ・酒井隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2003 など

社会統計学Ⅱ

担当教員 宮平 隆央

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っている場合が多く見られます。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。

この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、多変量解析の基本的な考え方と方法を学びます。それにより、統計リテラシー（統計を読み取る力・統計を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。

【授業の展開計画】

講義では、まず前期の社会統計学Ⅰの内容をおさらいした上で、多変量解析による分析手法の概要をお話します。その上で、代表的な分析手法について、事例やサンプルデータを用いて、実際に分析作業を練習しながら勉強していきます。それにより実践的な知識の習得を図ります。

なお、受講生の要望、講義の進み具合、講義実施上の都合などにより、講義の順序・内容を一部変更することもあります。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4
8	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」1
9	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」2
10	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」3
11	変数間の因果関係の強さをみる「パス解析」4
12	似たものをまとめる「クラスター分析」1
13	似たものをまとめる「クラスター分析」2
14	似たものをまとめる「クラスター分析」3
15	講義のふりかえり・まとめ
16	（レポート提出）

【履修上の注意事項】

- ・希望者が定員を上回った場合、原則として人間福祉学科の学生を優先する。
- ・授業中の私語・携帯電話は厳禁。場合によっては、退席を命じることもある。その場合、欠席したものとして取り扱う。
- ・欠席する場合は、事前もしくは事後に、必ず欠席届を提出すること。理由に応じて適切に対応する。

【評価方法】

- ・出席 : 45点 (講義1回3点×講義15回、宿題提出をもって出席とする)
- ・レポート : 50点
- ・その他 : 5点 (受講態度等)

【テキスト】

講義中で適宜指示する。またプリント・講義用サンプルデータ等を配布する。

【参考文献】

講義中で適宜指示する。

社会福祉学基礎

担当教員 岩田直子、比嘉昌哉、知名孝、保良昌徳、桃原一彦、安次富郁哉、小柳正弘、非常勤

対象学年 1年

開講時期 通年

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は人間福祉学科学生に対して、「社会福祉学」の導入として提供するものである。講義展開として人間福祉学科社会福祉専攻教員が、それぞれの専門分野をオムニバス方式で紹介する。また、実際の社会福祉領域で活躍する実践者を講師として招聘し、社会福祉の問題点・課題を明らかにしてもらう。

【授業の展開計画】

社会福祉専攻の教員7名および外部講師が、オムニバス形式で講義を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義オリエンテーション 安次富郁哉	17	社会福祉専攻教員F①
2	社会福祉専攻教員A①	18	社会福祉専攻教員F②
3	社会福祉専攻教員A②	19	社会福祉専攻教員F③
4	社会福祉専攻教員A③	20	社会福祉専攻教員G①
5	社会福祉専攻教員B①	21	社会福祉専攻教員G②
6	社会福祉専攻教員B②	22	社会福祉専攻教員G③
7	社会福祉専攻教員B③	23	外部講師A①
8	社会福祉専攻教員C①	24	外部講師A②
9	社会福祉専攻教員C②	25	外部講師B①
10	社会福祉専攻教員D①	26	外部講師B②
11	社会福祉専攻教員D②	27	外部講師C①
12	社会福祉専攻教員D③	28	外部講師C②
13	社会福祉専攻教員E①	29	外部講師D①
14	社会福祉専攻教員E②	30	外部講師D②
15	社会福祉専攻教員E③	31	まとめ
16	前期振り返り 安次富郁哉		

【履修上の注意事項】

人間福祉学科1年次全員が履修する科目であり、人数が非常に多い科目なので、課題等の提出期限を守ることや講義時は私語を慎む等、大学生としての基本的な受講態度を心がけてほしい。

【評価方法】

出席状況を基本とし、各担当教員からの課題レポートの提出状況、筆記試験などを勘案し総合的に評価する。

【テキスト】

特定したテキストは使用しない。原則として、各教員が随時資料を配付する。

【参考文献】

各教員が随時提示する。

社会福祉学特講 A

担当教員 岡本 裕一朗

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：小柳正弘）

【授業のねらい】

現代において、私たちの生命や生活がどのような状況におかれているかを、人間の福祉の観点から理解し、今後いかなる対策が必要かを考えていきます。20世紀後半から始まったBT（バイオテクノロジー）革命は、今まで常識となってきた思考方法を、根底から変更し始めています。この未曾有の変化が何を意味するのか、具体的な問題にそって議論したいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（講義全体のねらい、進め方、成績評価について）
2	社会福祉と生命倫理学
3	障害をもつことの現代的意味
4	20世紀の優生学
5	自由な優生学の台頭
6	治療と能力増強は区別できるのか？
7	自由な優生学を肯定する思想
8	自由な優生学に反対する思想
9	優生学をめぐるディスカッション
10	人間のサイボーグ化
11	ニューロエシックスの登場
12	脳の外科的治療とBMI
13	生命を操作することは悪いことか？
14	人間にとって、「福祉」とは何を意味するのか？
15	講義全体に対する質疑応答
16	テスト

【履修上の注意事項】

講義中の議論に積極的に参加してください。

【評価方法】

講義への参加度、テストなどによって総合的に評価します。

【テキスト】

【参考文献】

とくにありません。講義中、適宜指示します。

社会保障

担当教員 安次富郁哉（17回） 青山喜佐子（7回）、比嘉邦子（7回）

対象学年 2年

開講時期 通年

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義のねらいは、「①少子高齢社会を背景とした、わが国における社会保障制度の課題について理解する。②社会保障の概念や体系について理解する。③年金保険、労働保険、医療保険、介護保険等について具体的な内容を理解する。」である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 安次富	17	年金保険制度① 沿革 比嘉
2	社会保障制度の課題・概念・体系 安次富	18	年金保険制度② 概要 体系 比嘉
3	医療保険制度① 沿革及び体系 安次富	19	年金保険制度③ 国民年金 比嘉
4	医療保険制度② 安次富	20	年金保険制度④ 厚生年金 比嘉
5	医療保険制度③ 安次富	21	年金保険制度⑤ その他年金制度 比嘉
6	医療保険制度④ 安次富	22	年金制度の管理運営体制 今後の課題 比嘉
7	医療保険制度⑤ 安次富	23	年金制度振り返り 比嘉
8	医療保険制度⑥ 安次富	24	労働保険制度①労働者災害補償保険 青山
9	介護保険制度① 創設の経緯と改正 安次富	25	労働保険制度②労働者災害補償保険 青山
10	介護保険制度② 安次富	26	労働保険制度③雇用保険 青山
11	介護保険制度③ 安次富	27	労働保険制度④雇用保険 青山
12	介護保険制度④ 安次富	28	労働保険制度⑤雇用保険 青山
13	介護保険制度⑤ 安次富	29	労災保険・雇用保険の管理運営体制 青山
14	介護保険制度⑥ 安次富	30	労働保険制度 振り返り 青山
15	民間保険と社会保険 安次富	31	後期試験 安次富
16	前期試験 安次富		

【履修上の注意事項】

本科目は、複数の教員が担当するため、各教員が行う第一回の講義オリエンテーションには必ず出席すること。特に、前期第一回の講義オリエンテーションに出席しなかった学生は登録を取り消す。

【評価方法】

講義への出席状況、前期・後期で実施する試験点数、課題提出状況をもって総合的に評価する。

【テキスト】

中央法規出版「社会保障」社会福祉士養成講座シリーズを指定テキストとする。なお、講義初回のオリエンテーション時の教科書紹介後に購入すること（改訂最新版を使用するため）

【参考文献】

参考書については、講義の中で随時紹介する。

社会理論と社会システム

担当教員 崎濱 佳代

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義の目的は、人と社会の関係をどうとらえるかを学び、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題を社会学の視点から捉えなおすことである。社会福祉士にとって社会の成り立つ仕組みを知り、人々の関係性や生活世界に対する理解を深め、現代社会の抱える社会問題がどのようなものなのかを知っておくことは業務を遂行するための基礎となるので、ぜひ社会生活のなかで感じる自分なりの疑問に答えを見つけるつもりで受講してほしい。

【授業の展開計画】

本講義では、関連する資料や参考文献の内容を盛り込みながらテキストの解説を行う。学期半ばに中間テスト（小論文）、期末に課題レポートを行って授業に対する理解を確認する。

週	授 業 の 内 容
1	社会学とはなにか：これから学ぶこと
2	生活の理解：生活のとらえ方
3	生活の理解：家族
4	生活の理解：地域
5	人と社会の関係：社会的役割
6	人と社会の関係：社会的行為
7	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯
8	中間テスト（小論文）
9	社会問題の理解：社会問題のとらえ方
10	社会問題の理解：日本社会と社会問題
11	社会問題の理解：共生社会と権利
12	社会問題の理解：社会のグローバル化と社会問題
13	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（1）
14	現代社会の理解：社会変動—近代化、産業化、グローバリゼーション（2）、期末レポート提出
15	期末レポートの発表討論
16	期末レポート返却

【履修上の注意事項】

中間テスト、期末レポートとも授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。

高校社会科の復習をしておくことが望ましい。

【評価方法】

中間テストおよび期末レポートのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム』中央法規出版、2010年。

【参考文献】

講義の中で適宜、指示する。

就労支援サービス

担当教員 崎濱 秀政

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

「就労支援サービス」は、障害のある人が「働くこと」を通して円滑で安定的な社会生活を獲得し、「働き続ける」ことで自律的に「生きること」を目的としている。また障害のある人自身が「働くこと」により「生活のしやすさ」「生きやすさ」を求め、さまざまな社会資源とつながりながらインクルーシブな社会の構築もめざしたいのである。この講義では、教育分野の役割、福祉分野と労働分野の有機的な施策の連携、実践者の連携こそが「就労支援サービス」であることを理解する。その連携の手段として、障害のある一人ひとりに合わせた個別支援計画の策定とケアマネジメントの重要性も理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 就労支援の意味と社会福祉士の役割
2	就労支援の対象者
3	就労支援の方法
4	就労支援制度と就労支援機関、専門職の役割
5	低所得者と就労支援
6	就労支援とケアマネジメント、就労支援の流れ
7	就労支援ネットワークの必要性
8	就労支援の実際
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

障害学

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①障害をキーワードに社会を捉えなおす。障害学の入門的講義。
- ②障害者福祉論の講義とは異なる視点から障害や障害者が直面することを問う。
- ③「障害の社会モデル」をベースに社会現象を多角的に分析する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害学とは ～オリエンテーション～
2	障害の定義 ～WHOのICF、医学モデル、社会モデル～
3	障害学の視点 ～コロニアリズム、ジェンダーとの比較を通して～
4	優生思想の考え方
5	出生前診断は必要か
6	日本の障害者運動が主張してきたこと
7	障害者運動の国際的動向
8	ゲストスピーカー①
9	ろう文化
10	知的障害者のアドボカシー
11	ゲストスピーカー②
12	精神障害施策の変遷と脱施設化に向けた取組み～理論と実際
13	ゲストスピーカー③
14	メディア、芸術にみる障害者像
15	障害と開発～途上国の障害者からの問いかけ～
16	まとめ

【履修上の注意事項】

- ①スケジュールはゲストスピーカーの都合等で前後することがあります。
- ②講義で学んだ視点を活かして広く今日の社会を再評価してみましょう。

【評価方法】

- ①レポート
- ②ゲストスピーカーの講演およびビデオの感想

【テキスト】

特定のものはありません。随時紹介します。

【参考文献】

- ①石川准、長瀬修(1999)『障害学への招待』明石書店
- ②石川准、倉本智明(2002)『障害学の主張』明石書店
- ③マイケル・オリバー著、野中、河口訳(2010)『障害学にもとづくソーシャルワーク』金剛出版
- ④堀正嗣編(2012)『共生の障害学～排除と隔離を超えて』明石書店9

障害者に対する支援と障害者自立支援制度

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

①「障害」とはいったい何かについて考える ②障害者がたどった歴史について理解を深める ③障害者福祉の理念について理解を深める ④障害者を対象にした法律の変遷を理解すると共に、知識を広める ⑤障害児者が日々の生活の中で直面する問題（教育、雇用、移動、経済的保障、社会参加など）についてその原因と課題について考える ⑥障害当事者の視点から社会福祉サービスを再考する ⑦沖縄の視点から障害者福祉を考える ⑧途上国の障害者福祉について理解を深める

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	障害者福祉の理念～障害者権利条約を中心に
2	障害者福祉の歴史
3	障害の定義：ICF、障害の社会モデル、国内法を中心に
4	自立生活の理念と国内外の動向
5	障害者福祉施策の概要（1）
6	障害者福祉施策の概要（2）
7	諸外国の障害者福祉施策の概要
8	障害児者に関する国際連合の動向
9	障害者の生活と社会福祉施策の課題（1）
10	障害者の生活と社会福祉施策の課題（2）
11	障害者の生活と社会福祉施策の課題（3）
12	障害者の生活と社会福祉施策の課題（4）
13	障害者の生活と社会福祉施策の課題（5）
14	障害者運動の主張と政策への影響
15	障害と開発
16	

【履修上の注意事項】

障害者福祉の基盤となる定義や理念を理解することに努めること。

配布資料や参考文献をしっかりと読むこと。

授業と並行して、積極的にボランティア活動に参加したりメディア情報にアクセスしたりすることを勧める。

【評価方法】

- ①定期試験(2回)の結果およびレポートの内容
- ②授業態度
- ③その他、ビデオ鑑賞の後に提出してもらう感想など

【テキスト】

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度—障害者福祉論」（最新版）、中央法規

「障害のある人の支援と社会福祉—障害者福祉入門」（2008）、ミネルヴァ書房

「障害者権利条約 日英対訳とコメント～障害者権利条約の批准と完全実施に向けて」JDF

【参考文献】

第1回講義時に提示する

障害児・者心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業では障害をどのように捉えるのかについて解説した後、障害児・者の心理学的な特性について視覚障害・聴覚障害・言語障害・運動障害・学習障害、注意欠陥/多動性障害、自閉症スペクトラム障害、知的障害を主な対象として各々の障害の心理学的な特性について解説する。そのうえで、それぞれの障害がどのような心理学的特徴があるのかを理解することをねらいとしている。

【授業の展開計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害・発達障害をどうとらえるか
- 第3回 障害の原因・病理
- 第4回 視覚障害の心理学的特徴
- 第5回 聴覚障害の心理学的特徴
- 第6回 言語障害の心理学的特徴
- 第7回 運動障害の心理学的特徴
- 第8回 知的障害の心理学的特徴
- 第9回 学習障害の心理学的特徴（1）
- 第10回 学習障害の心理学的特徴（2）
- 第11回 注意欠如/多動性障害の心理学的特徴（1）
- 第12回 注意欠如/多動性障害の心理学的特徴（2）
- 第13回 自閉症スペクトラム障害の心理学的特徴（1）
- 第14回 自閉症スペクトラム障害の心理学的特徴（2）
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

【履修上の注意事項】

この授業は受講生自身が積極的に考え、学ぶことを基本にしている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって授業に参加のこと。また、授業に遅刻や欠席をせず、受講する自信のあることが前提条件である。

【評価方法】

授業の予習レポートおよび学期末試験の成績を総合的に評価する。基本的には、レポート30%、学期末試験70%の比重で評価する。

【テキスト】

特に指定はしないが、以下の図書は授業に即した内容となっている。

梅谷忠勇・生川義雄・堅田明義 「特別支援児の心理学 理解と支援」 北大路書房 ￥2500+税

【参考文献】

1. 小林隆児 よくわかる自閉症「関係発達」からのアプローチ 法研 ￥1,700+税
2. 杉山登志郎 発達障害の子どもたち 講談社現代新書 ￥720+税
3. 伊澤信三/小島道生 障害児心理入門 ミネルヴァ書房 ￥2,500+税

心理学概論

担当教員 前堂 志乃、竹村 明子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、心理学の歴史、主要な研究、重要な理論などを幅広く取り上げ、心理学の各専門領域を概説する。心理学全般についての幅広い基礎知識を身につけ、人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点を身につけてもらいたい。この講義はオムニバス形式で開講し前期は前堂、後期は竹村が担当する。前期は、心理学の歴史、研究法、感覚・知覚・記憶・学習・思考・知能・動機づけ・情動・こころと脳、後期は、発達、人格、社会、臨床などを取り上げる。普段は気づかない自分のこころの仕組みを理解し、心理学の幅広さと面白さを知って欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	後期オリエンテーション
2	心理学の歴史と研究法①	18	発達心理学①
3	心理学の歴史と研究法②	19	発達心理学②
4	感覚・知覚①	20	発達心理学③
5	感覚・知覚②	21	人格心理学①
6	記憶①	22	人格心理学②
7	記憶②	23	社会心理学①
8	学習①	24	社会心理学②
9	学習②	25	社会心理学③
10	思考と創造性①	26	社会心理学④
11	思考と創造性・知能②	27	臨床心理学①
12	動機づけ・情動②	28	臨床心理学②
13	動機づけ・情動①	29	臨床心理学③
14	こころと脳①	30	心理学を学ぶことは役に立つのか？①
15	こころと脳②	31	心理学を学ぶことは役に立つのか？②
16			

【履修上の注意事項】

- 水曜 1校時の「心理学概論」のクラスは人間福祉学科の専門科目として開講しています。特に、心理カウンセリング専攻の1年次にとっては重要な基礎科目であるため心理専攻の学生を優先的に登録します。
- 人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する場合は、H26年度に開講される教職用クラスを受講してください（教職用クラスは隔年開講となっており、H25年度は開講されません）。

【評価方法】

- 出席、期末課題、期末試験などを総合し、さらに、前期と後期の成績を総合して評価する。
- 前期と後期それぞれにおいて、出席、レポート、期末試験などを課す。詳細については、それぞれ学期初めのオリエンテーションで各担当者の説明を聞いて確認すること。

【テキスト】

初回オリエンテーション時に紹介する

【参考文献】

授業時に適宜紹介する

心理学基礎演習 A

担当教員 平山篤史、前堂志乃、上田幸彦、井村弘子、泊真児（5クラス）

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習①および実習④は登録ゼミ担当者が行う。実習②、③、⑤、⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥の合計6つ提出する。実習④はポスター発表会を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	17	3, 4年ゼミ配属合同説明会
2	実験法とは (合同ゼミ)	18	実習④-1 質問紙調査とは
3	実習①-1 実験テーマの説明	19	実習④-2 質問紙の内容の検討1
4	実習①-2 実験の手続き・実施	20	実習④-3 質問紙の内容の検討2
5	実習①-3 結果の解釈とまとめ	21	実習④-4 質問紙の作成
6	文献検索の仕方	22	実習④-5 質問紙法の実施と入力
7	実習①-4 レポートの書き方と考察	23	実習④-6 質問紙法のデータ分析
8	実習①-5 レポートの添削フィードバック	24	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察
9	実習②-1	25	実習④-8 質問紙のポスター発表会
10	実習②-2	26	実習⑤-1
11	実習②-3	27	実習⑤-2
12	実習③-1	28	実習⑤-3
13	実習③-2	29	実習⑥-1
14	実習③-3	30	実習⑥-2
15	質問紙調査法オリエンテーション	31	実習⑥-3
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- 1, 報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- 2, ①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学基礎演習 B

担当教員 平山篤史、前堂志乃、上田幸彦、井村弘子、泊真児（5クラス）

対象学年 2年

開講時期 後期

単位区分 必

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講の目的は、実際に複数の心理学基礎実験・実習の体験を通して、心理学における実験的研究や実証的研究の基礎を修得することである。具体的には、実験的技法や実証的技法を基盤とした複数の基礎心理学的実験・実習において、実験者および研究対象者(実験参加者、調査協力者等)の体験をし、得られたデータを自ら分析し、毎回報告書を提出する。心理学の各分野から選んだ実験・実習の主題のもと、知覚実験、記憶実験、学習実験、社会心理学実験、行動観察、質問紙調査などの実験・実習を行う。

【授業の展開計画】

講義は、ゼミごとに行う個別ゼミと、合同ゼミの回がある。実習①および実習④は登録ゼミ担当者が行う。実習②、③、⑤、⑥はローテーションで各種の研究法を体験し、レポートを作成・提出する。レポートは実習①～⑥の合計6つ提出する。実習④はポスター発表会を行う。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	全体オリエンテーション/心理学研究法とは	17	3, 4年ゼミ配属合同説明会
2	実験法とは (合同ゼミ)	18	実習④-1 質問紙調査とは
3	実習①-1 実験テーマの説明	19	実習④-2 質問紙の内容の検討1
4	実習①-2 実験の手続き・実施	20	実習④-3 質問紙の内容の検討2
5	実習①-3 結果の解釈とまとめ	21	実習④-4 質問紙の作成
6	文献検索の仕方	22	実習④-5 質問紙法の実施と入力
7	実習①-4 レポートの書き方と考察	23	実習④-6 質問紙法のデータ分析
8	実習①-5 レポートの添削フィードバック	24	実習④-7 質問紙法の結果のまとめと考察
9	実習②-1	25	実習④-8 質問紙のポスター発表会
10	実習②-2	26	実習⑤-1
11	実習②-3	27	実習⑤-2
12	実習③-1	28	実習⑤-3
13	実習③-2	29	実習⑥-1
14	実習③-3	30	実習⑥-2
15	質問紙調査法オリエンテーション	31	実習⑥-3
16	卒論ゼミのオリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ・この演習は、さらに、5ゼミ全てが同じ内容の実習を行い、学生全員が、合同ゼミと、ローテーションで5名の担当教員の指導を受ける形式をとる。
- ・実習を伴うゼミなので、主体的に積極的な受講態度が重要である。
- ・実習を伴うため、受講環境を考慮し、各ゼミの定員はほぼ同数になるようにクラス編成をする予定である。

【評価方法】

- 1, 報告書の提出：実習①～⑥と質問紙調査の合計7つの実習報告書をレポートとして提出する。
- 2, ①のレポートの評価と、毎週の出席、基礎実習中の参加態度、個別ゼミへの参加態度などを総合して、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書等は、講義の中で適宜紹介する。

心理学研究法 I

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義では、心理学の研究をしていく手順や方法についての基礎的知識を理解することを目的とする。具体的には、心理学の歴史の過程で採用されてきた各種の研究法についての理論と技法について理解していく。さらに、各種の研究法を組み合わせた、実践的研究法、心理臨床的研究法についても理解していく。最後に、研究の展開の仕方、研究倫理についても理解していく。後期の心理学研究法Ⅱで研究の実際について学ぶために、その前提となる心理学研究法の各研究法の基礎知識を身につけることが目標となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理学研究法とは何か
3	実験の倫理と方法①
4	実験の倫理と方法②
5	実験の倫理と方法③
6	質的調査－観察・面接・フィールドワーク①
7	質的調査－観察・面接・フィールドワーク②
8	準実験と単一事例実験①
9	準実験と単一事例実験②
10	量的調査－尺度の作成と相関分析①
11	量的調査－尺度の作成と相関分析①
12	量的調査－尺度の作成と相関分析①
13	教育・発達における実践研究
14	臨床における実践研究
15	研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学の基礎科目（心理学概論、心理統計学基礎）を履修済みであることがのぞましい。
- ・初回のオリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。
授業の進度に応じて授業計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを配布し説明する。
- ・専門ゼミ（心理学基礎演習A・B、心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ）に関連が深い科目である。
それぞれの科目で学んだことを関連づけて理解するようにしてほしい。

【評価方法】

出席確認：感想シート、クイズへの回答などをもって平常点とする（出席確認を兼ねる）。
ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
平常点、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・講義の中で、適宜紹介する。
- ・必要に応じて資料を配付する。

心理学研究法Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講は、心理学研究法Ⅰで学んだ各種研究法に関する基礎知識をベースに、心理学の研究の方法、手続、技法、研究の進め方などについてさらに理解を深め、心理学の研究力を身につけることを目的とする。心理学にはいくつかの代表的な研究手法があるが、中でも研究の基礎となり卒論で最も多用される実験法と質問紙法を取り上げ、実習を交えながら体験的に理解を深めていく。典型的な事例を挙げながら、できるだけ具体的に、研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の策定と吟味、研究の具体化、報告書の執筆、という研究の流れを辿りながら、研究をすることの意味と面白さについてともに考え理解を深めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認
2	実験法①
3	実験法②
4	実験法③
5	実験法④
6	実験法⑤
7	研究する意味・研究テーマの選定・設定
8	研究デザインと研究計画の策定・研究デザインと研究計画の吟味と具体化
9	研究成果の報告①
10	研究成果の報告②・研究のつながりと楽しみ
11	質問紙法①
12	質問紙法②
13	質問紙法③
14	質問紙法④
15	質問紙法⑤・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学研究法Ⅰ、心理学の基礎科目（心理学概論、心理統計学基礎）を履修済みであることがのぞましい。
- ・初回のオリエンテーション時に詳細なシラバスを配布し説明する。授業の進度に応じて授業計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを配布し説明する。
- ・専門ゼミ（心理学基礎演習A・B、心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ）に関連が深い科目である。それぞれの科目で学んだことを関連づけて理解するようにしてほしい。

【評価方法】

出席確認：感想シート、クイズへの回答などをもって平常点とする（出席確認を兼ねる）。
ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題をワークシートとして課す。
期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
出席、ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

- ・授業時に適宜紹介する
- ・心理学基礎演習の講義で紹介された参考図書も活用する
- ・その他、初回の講義時に紹介する予定

心理学専門演習 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

心理学の文献・先行研究を精読し、独自の研究計画を立てる。その計画に基づき、心理学研究の研究法の一つである質問紙調査法を用いて実際のデータを収集し、まとめ、発表をする。さらに、自らの研究を再検討しなおし、卒業論文のテーマを設定する。テーマとしては以下のものを取り上げる。

1、大学生の対人交流に関する研究 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に）に関する研究 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

以下の内容で授業を展開する。

- 1、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
- 2、文献・論文の精読
- 3、研究計画の作成
- 4、質問紙調査表の作成
- 5、質問紙調査の実施とデータとまとめ
- 6、質問紙調査の結果のまとめと考察
- 7、プレゼンテーションの準備
- 8、研究の再検討
- 9、卒業論文のテーマ設定と研究計画

【履修上の注意事項】

受講生自身が積極的・主体的に考え、意見を述べることを求める。演習の時間だけでは研究を進めることはできない。普段から自分で積極的・自主的に研究を進めていかなければならない。

【評価方法】

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポートなどを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習 I

担当教員 上田 幸彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であり、さまざまな心理学的研究方法があることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げようとする。論文講読とディスカッションを通して、現在の臨床心理学の知見がどのようにして得られたのかを理解し、研究テーマ設定、文献検索、仮説構築、検証といった一連の研究手続きができるようになることをねらいとする。領域は、主に中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、リハビリテーション、認知行動療法の中から基礎的な論文を読む予定である。

【授業の展開計画】

前期においては、各自が興味あるテーマを発表したあと、中途身体障害、慢性疾患、高次脳機能障害、認知行動療法などの領域の基礎的な論文を輪読する。夏休み中には、上記の領域の中から指定された文献の一つを読み書評を書く。夏休み明けから、その概要を報告し、内容についてディスカッションを行う。後期においては、文献の輪読を続けながら、各自関心のある領域の一つを選び、その領域の論文を3つ以上読むことを課題とする。その中の1つについて概要を発表する。最終的には読んだ3つの論文の概要を提出する。適宜、各自の卒論研究についての構想を報告し、全体でディスカッションを行う。

【履修上の注意事項】

自分の発表以外の時に、積極的に疑問を持ち、質問し、考えを述べるのが求められる。授業中に積極的にディスカッションに参加するためには事前準備をしっかりと行うことが必要となる。行動療法、障害児・者心理学、神経心理学を受講していることが望ましい。

【評価方法】

授業への出席状況と、ディスカッションの積極性、前期、後期に提出されたレポートから総合的に評価する。

【テキスト】

【参考文献】

心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G. イーゼンバーク編 野中 猛・池淵恵美 監訳 岩崎学術出版社

心理学専門演習 I

担当教員 泊 真児

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

専門演習 I の目的は、卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、社会心理学ないし臨床社会心理学的なテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。ゼミ活動を通して、文献の読み方を習得できるようなトレーニングを重点的に行うほか、文献検索の仕方、レジュメのまとめ方、発表の仕方、質疑応答の仕方等を学んでいきます。前期はそうした基礎作りに重点を置き、後期からは、学生各自が興味・関心を持つ心理学の専門書や論文を読んで個人発表をし、全体討論を行うという形で進めていきます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション & ゼミメンバー紹介	17	夏休み課題に関する個人発表
2	文献検索実習（本学図書館を利用）	18	学術論文の個人発表(1)
3	文献の活用法	19	学術論文の個人発表(2)
4	論文の読み方入門	20	学術論文の個人発表(3)
5	論文の読み方トレーニング(1)	21	学術論文の個人発表(4)
6	論文の読み方トレーニング(2)	22	学術論文の個人発表(5)
7	レジュメ作成の仕方入門	23	学術論文の個人発表(6)
8	発表・プレゼンの仕方入門	24	学術論文の個人発表(7)
9	個人発表(1)：心理学専門書の発表と討議	25	学術論文の個人発表(8)
10	個人発表(2)：心理学専門書の発表と討議	26	学術論文の個人発表(9)
11	個人発表(3)：心理学専門書の発表と討議	27	学術論文の個人発表(10)
12	個人発表(4)：心理学専門書の発表と討議	28	学術論文の個人発表(11)
13	個人発表(5)：心理学専門書の発表と討議	29	学術論文の個人発表(12)
14	個人発表(6)：心理学専門書の発表と討議	30	学術論文の個人発表(13)
15	個人発表(7)：心理学専門書の発表と討議	31	卒論構想予備検討会に向けてのガイダンス
16	前期の総括と後期に向けての夏休み課題提示		

【履修上の注意事項】

- この授業は遅刻・欠席をせずに参加することが求められます。また、授業への参加態度（各回での発表や質疑応答の仕方、ゼミ活動への積極性など）を重視して評価を行います。
- 個人発表においては、発表者以外の学生にも役割が割り当てられますので、やむを得ない事情がない限り、遅刻・欠席をしないでください。
- 授業の展開計画は、受講者数などの状況に応じて変更となる可能性があります。

【評価方法】

授業への出席および参加態度により評価を行います。成績評価のウェイトは、出席状況が45%、授業への参加態度が55%で、これらを総合して評価を行います。授業内で頻繁に意見表明を求める機会がありますので、意見を表明をしなかったり、消極的な態度を示したりする場合には評価が低くなります。

【テキスト】

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考文献】

- 卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
- 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
 - 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

この演習は卒業論文の前段階として、心理学の各領域の研究方法を理解し、卒業論文のテーマを発見することを目的としている。そのために前期では文献の検索、読み込み、発表を行い、研究に必要な基礎知識を習得する。後期では、各自の関心のあるテーマについて前期で学んだ研究方法を基にデータを収集しレポートにまとめる。こうした一連の活動を通して卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目的としている。

【授業の展開計画】

前期では心理学の領域や研究方法について、文献を通して理解を深める。そのために、各自が論文を読み、概要を報告すると同時に、論文の特徴や課題について発表する。その際、その論文のテーマと方法についても十分に理解して説明することが求められる。発表者だけでなく、全員の理解が深まることを目的としているので、受講者全員が主体的に討論に参加することが求められる。なお、取り上げる論文については講義時に紹介する予定である。後期では、前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み大まかな研究計画を立てる。

【履修上の注意事項】

この演習は、受講生自身が積極的に考え、行動することを基本としている。したがって、常に疑問をもち、それを解決しようとする姿勢をもって参加すること。また、遅刻や欠席をせず、受講することが前提条件である。

【評価方法】

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

杉本敏夫（著）「心理学のためのレポート・卒業論文の書き方」サイエンス社

【参考文献】

各自のテーマに沿って紹介する。

心理学専門演習Ⅰ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講では、卒業研究の前段階として、心理学の各研究法を理解しその手続きを身につけることを目的とする。具体的には、小グループに分かれてのグループ研究を行う。グループでの討議と協働を通して、自らの問題意識とリサーチクエスチョンの関係づけ、文献検索、文献の読み込み、研究テーマの発見、研究デザインの設定、研究計画の策定、実験、調査などの計画・実行、データの収集と分析、報告書の作成と発表という一連の研究活動について体験的に学んでいく。このグループ研究活動を通して卒業研究へと繋げていく。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：心理学の研究の流れと研究論文について

3～7週目：テキストの講読

8週目：グループ研究の流れについて・研究グループの編成

9週目：問題意識とリサーチクエスチョンについて

10週目：文献検索と文献レビューについて

11週目：研究テーマの設定、研究デザインと研究計画について

12～14週目：グループ研究①文献の読み込みと文献レビュー発表

15週目：グループ研究②研究デザインの検討と発表

後期

1～4週目：グループ研究③研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

5～9週目：グループ研究④研究の実施（データ収集と結果の分析）

10～12週目：グループ研究⑤考察および研究報告書・ポスターの作成・研究報告会

13～15週目：卒論のデザインの検討と発表

*前期の後半からは研究グループでの活動が主となる

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年次での卒業研究につなげるため、グループでのゼミ研究を行う。グループ研究活動へ自発的・積極的に取り組むことを通して、さまざまな意見をもつメンバーと討議・協働しながら1つの研究を立ち上げて一定の結論を得るという達成感を味わって欲しい。心理学専門演習Ⅱ（4年ゼミ）との合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、課題発表、グループ研究発表（発表レジюмеとポスターの作成・研究レポートの提出）、卒論デザイン発表（文献レビュー・卒論のデザインレジюмеの提出）などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

- ①都筑学（2008）．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文（2008）．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版

【参考文献】

参考図書は、講義の中で適宜紹介する。

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 泊 真児

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに学習してきたことの集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの方や考え方、表現の仕方を身につけることを狙いとする。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主として社会心理学的なアプローチにより研究を行う。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究デザインの策定、データの収集と分析、考察、そして論文執筆と発表まで、一連の心理学的研究法を体験的に学ぶ。この営みを通して、論理的な思考力を身につけ、生活や仕事にも役立つスキルを高めることを目指す。

【授業の展開計画】

※前・後期共に、各自が定期的にゼミでの発表と討議を行うことを基本とし、これに適宜、個別指導を組み合わせながら進めていく。

●前期

- 1週目：オリエンテーション
- 2～6週目：卒業論文の研究デザイン確定に向けた個人発表(1)～(5)
- 7週目：卒業論文のデザイン発表会(1)
- 8週目：卒業論文のデザイン発表会(2)
- 9週目：卒業論文のデザイン発表会(3)
- 10～12週目：研究計画の具体化(実験・調査等の準備)
- 13～15週目：研究の実施(データ収集・分析・まとめ)

●後期

- 1～4週目：研究の実施(データ収集・分析・まとめ)
- 5週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 6週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 7週目：卒業論文中間発表会(1)
- 8週目：卒業論文中間発表会(2)
- 9～11週目：データ分析と考察および卒業論文の執筆
- 12週目：ポスター発表の準備および抄録原稿の作成
- 13週目：ポスター発表の準備および抄録原稿の作成
- 14週目：ポスター発表の予行演習
- 15週目：ポスター発表の予行演習

【履修上の注意事項】

- ・卒業論文作成のためのゼミですから、出席重視とします。
- ・教員やゼミの仲間に相談したり、協力したりしながら、卒業研究を進めましょう。自分勝手な判断で動かないようにしてください。

【評価方法】

毎回のゼミへの出席状況、ゼミへの参加態度、各種の発表、卒業論文作成過程における取り組み方(積極性等)、提出された卒業論文のできばえ等を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

さしあたり以下の2冊を紹介する。あとはゼミの中で適宜紹介する。

- (1)松井豊 (2010) 改訂新版ー心理学論文の書き方 河出書房新社
- (2)都筑学 (2006) 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 前堂 志乃

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本講の目的は、4年間の専門領域の学習の集大成として、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文をまとめることである。まず、心理学の各分野についての学習を通して培ってきた自分なりの問題意識をリサーチクエスチョンとし、卒業論文のテーマを設定、関連文献の読み込み、研究デザインの組立と発表を行う。続いて、研究デザインにもとづき適正な研究手続きのもと実験・調査等を行い、データを収集・分析し、卒業論文にまとめ、卒論発表を行う。卒論研究を通して、心理学的なものごとを捉え、深く考察し、得られた結論を発信するという、心理学的思考力と研究力を身につけることを目標とする。

【授業の展開計画】

前期

1週目：オリエンテーション

2週目：卒業論文の研究デザインと研究計画について

3週目：卒業論文の研究デザインと研究計画の策定

4～7週目：デザイン発表

8～10週目：研究計画の具体化（実験・調査などの準備）

11～15週目：研究の実施（データ収集と分析）

後期

1～12週目：結果の分析と考察および卒業論文の執筆

13週～15週目：ポスター発表の準備と発表

*前・後期ともに定期的なゼミでの発表と討議、個別指導を組み合わせる

【履修上の注意事項】

4年間の心理学に関する学びの集大成となるゼミである。心理学的研究手法の実践を通して卒業論文の作成と発表を達成して欲しい。卒業論文への取り組みを通し、心理学的なものごとを捉え、深く考察し、何かを発見するという、研究する面白さや楽しみをぜひ感じて欲しい。特にグループ研究を推奨する。また、心理学専門演習Ⅰ(3年ゼミ)のゼミとの合同の勉強会や、合同ゼミも計画している。学年を超えての学習活動に主体的に参加することで、相互に刺激し、学び合える関係を体験して欲しい。

【評価方法】

ゼミへの参加度、デザイン発表や卒論発表、卒論の内容などを総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献】

- ①都筑学(2008)．心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣
- ②小塩真司・西口利文(2008)．心理学基礎演習Vol.2 質問紙調査の手順 ナカニシヤ出版
- ③その他の参考図書は、講義の中で適宜紹介する

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。人のこころに関する現象を明らかにすることの奥の深さ、面白さを体験してほしい。取り上げるテーマは、以下のテーマを設定している。1、大学生の対人交流 2、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、自己注目、自己呈示、自己開示、自己意識を中心に） 3、グループアプローチ・グループ活動に関する研究 4、動作法に関する研究

【授業の展開計画】

4月～6月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	研究デザイン発表会（問題と目的・方法の検討）
7月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

積極的・主体的に研究に取り組む姿勢を求める。
心理学研究の基礎を大切にしつつ、オリジナリティーのある研究を行うことを期待する。
研究は一人で行うのは難しい。ゼミ受講生の相互の協力が必要とされる。互いに助け合い、切磋琢磨し研究を進めることを期待する。

【評価方法】

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

【テキスト】

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習vol. 2「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社

【参考文献】

適宜紹介する。

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。すべてのデータ収集の後、データの分析と整理を行い、中間発表を経て論文を作成し最終発表を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

【授業の展開計画】

前期ではまず、研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。6月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめめる。後期では、収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行う。12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて、論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

【履修上の注意事項】

必要に応じて個別指導と一斉指導を併用しながら演習を展開する。また、卒業論文を作成することを目的としているので、デザイン、中間、最終と各段階での発表を行うことを前提としている。論文を作成するためには、毎日の地道な積み重ねが必要となるので、各自が卒業論文作成のための綿密な計画、時間管理、就職活動や大学院進学準備との両立など、十分な体制を作っておくことを望んでいる。

【評価方法】

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

個別に助言・提示する。

【参考文献】

松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

心理学専門演習Ⅱ

担当教員 上田 幸彦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

卒業論文作成を通して、一連の心理学的研究法を修得することが狙いである。これまでに学習してきたことをもとに、各自が関心のある、かつ臨床心理学的にも意義のあるテーマを見だし、そのテーマに沿って文献検索、文献の読み込み、研究計画策定、データ収集、データ分析を行い、データに基づいた結論を導き出せるようにしていく。またテーマ設定、研究計画、データ収集後の中間発表を通して、他者に分かりやすい論理的な文章の書き方を身につけることも狙いとする。

【授業の展開計画】

前期においては3年次での準備に基づき、すぐに研究計画の発表、あるいは予備実験を開始する。その後、データ収集法、データ整理、統計的検定法について個別に具体的な指導を受けながら、夏休み前に、あるいは遅くとも夏休み中には本実験の開始、すなわちデータ収集に入れるようにする。

後期においては、すぐに夏休み中に収集したデータの統計的分析を終わらせ、結果について中間発表を行う。それに基づき、心理学研究論文としての結果の記述の仕方、考察の展開の仕方について個別に指導する。これらの指導を受けながら卒業論文を完成させる。最終的にはポスター発表の形式で成果を報告する。

【履修上の注意事項】

心理学の卒業論文作成は、そのデータ収集に醍醐味がある。最良の状態でこれに取り組めるように計画、準備し実行すること。最終目標は、心理学研究論文としての卒業論文を完成させることである。そのために研究計画、中間報告、最終報告を行うが、それぞれの報告を十分に行うためには、早くから準備すること、時間をかけること、そして主体的に研究を進めていく姿勢が必要とされる。こちらからの指示待ちではなく、積極的に個別指導を活用して欲しい。

【評価方法】

論文作成過程での取り組み方、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。

【テキスト】

【参考文献】

APA論文作成マニュアル 江藤裕之他訳 医学書院

心理学と職業

担当教員 山入端津由、上田幸彦、井村弘子、前堂志乃、泊真児、平山篤史

対象学年 1年

開講時期 その他

単位区分 必

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義（注意：登録制限単位数40単位に含まれる。）

【授業のねらい】

この講義は心理学を学ぶことで、社会とどのように関わるかについて、心理の専門職を中心に学ぶことを目的としています。調べ学習で様々な心理の専門職について学習した後、実際に、それらの施設を見学し、実際に現場で活躍している心理の専門職の先輩方の講話を聴きます。これらの知識の習得と体験を通して、学生個々人の将来設計や進路を明確にし、今後の大学生活の目標を設定や学習へのモチベーションを高めることを目的としています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	矯正施設の見学①（少年院）
3	少年院の心理職の講話
4	矯正施設の見学②（少年鑑別所）
5	少年鑑別所の心理職の講話
6	福祉施設の見学（児童自立支援施設）
7	児童自立支援施設の心理職の講話
8	精神科病院の見学①
9	精神科病院の見学②
10	精神科病院の心理職の講話
11	教育施設の見学
12	適応指導教室の心理職の講話
13	病院で働く臨床心理士の講話①
14	病院で働く臨床心理士の講話②
15	教育機関で働く臨床心理士の講話③
16	レポート提出

【履修上の注意事項】

受講態度についてはルールの厳守を徹底します。見学する各施設は、実際に支援を必要とする方々が、生活・利用をしています。受講学生は、それにふさわしい服装、態度で見学に臨んでもらいます。また、団体行動を行います。時間厳守をお願いします。また、施設見学では、個人情報に関する種皮義務も課せられます。詳細については、講義の中で説明します。

【評価方法】

受講態度、出席状況が評価に大きく影響します。さらに、振り返りの時間でのコメント、各プログラム終了後の感想・レポートを総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習Aで扱った、心理関連の職業調べ学習の内容を復習しておくこと

心理学特講 A

担当教員 堀毛 裕子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義（世話役：山入端津由）

【授業のねらい】

健康心理学は、心理学では新しい領域のひとつである。従来の臨床心理学で扱うような心理の病理だけではなく、心と身体との関係を重視し、予防や健康増進までを視野に入れて、人間の健康に関する問題を統合的に取り扱う。この講義では、健康心理学の基本的な知識の習得を目指す。

達成目標は以下の通り。（1）心と身体との関係を重視し統合的に取り扱う、健康心理学の基本的な視点を理解する。（2）健康心理学における基礎的知識を身につける。（3）健康心理学から得た知識を、自分自信の生活に応用できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	健康とウェルビーイング
3	健康心理学の視点
4	心理学的ストレス理論（その1）
5	心理学的ストレス理論（その2）
6	健康関連行動と行動変容のモデル（その1）
7	健康関連行動と行動変容のモデル（その2）
8	健康教育とヘルスプロモーション
9	生活習慣と疾病予防
10	健康とパーソナリティ
11	病気の主観的体験と語り
12	痛みの心理
13	健康と社会文化的要因
14	ポジティブ心理学と健康
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

他の心理学系科目や隣接諸科学での学習内容を思い出し、それらと関連させながら授業内容を理解しようとする態度が、学修を深めることに役立つ。受講者は、事前に教科書を用意の上、初回に必ず持参すること。

【評価方法】

最終回の試験により、達成目標の到達状況を評価する。

【テキスト】

春木豊〔ほか〕共著『健康の心理学：心と身体との健康のために』（ライブラリ実践のための心理学，6）サイエンス社，2007

【参考文献】

心理学特講C

担当教員 新里 健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、少子化や核家族などの影響で、子どもたちの社会性が欠如してきたと言われ、教育現場でも、不登校、いじめ、非行、引きこもりなどの問題が多発し、大きな社会問題となっている。

本授業では、受講者間での活動を通じて、自然な人間関係を構築できるような交流を体験させ、集団でのポジティブ体験をねらう。毎回異なる活動を提示し参加型の授業を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、非言語コミュニケーション：表情伝言ゲーム
2	言語コミュニケーション：他者紹介、共通点探し
3	言語コミュニケーション：絵の内容を伝える
4	言語コミュニケーション：ビンゴゲーム
5	問題解決スキル：問題解決のステップと問題解決のシナリオ
6	怒りのマネジメント：怒りの表現・身体と行動、怒りの対処法
7	自尊感情：いいところ探し
8	自尊感情：この人は誰でしょう
9	自尊感情：リフレーミング、つぶやき
10	自尊感情：心からの贈り物
11	ストレスマネジメント：ストレスの発見
12	アサーショントレーニング：ロールプレイ
13	自己の価値を高める：名刺交換
14	自己の価値を高める：春夏秋冬
15	自己の価値を高める：私の大切なもの
16	試験

【履修上の注意事項】

参加型授業であるので、特に出席状況を重視する。授業への参加で評価するので、遅刻や欠席は評価に大きく影響するので、注意を要する。

【評価方法】

毎回の豆テスト、試験、出席状況等を総合的に考慮して評価する。5回以上欠席した場合は、単位は与えられない。参加型授業であるため、20分以上遅刻した場合は、遅刻扱いではなく欠席扱いとする。また、遅刻の場合は3回で1回欠席とする。

【テキスト】

基本的には下記テキストを用いるが、授業の際はプリントを配布する。
新里健、島袋有子 2008『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング 33-学級経営に生かすSST』株式会社 グリーンキャット

【参考文献】

相川充 2002『人づきあいの技術-社会的スキルの心理学』サイエンス社、阿部潔 2006『日常のなかのコミュニケーション-現代を生きる「わたし」のゆくえ』北樹出版、平木典子 2005『アサーショントレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房

心理学特講D

担当教員 玉城 弘美

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近年、落ち着きがない、指示にのらない、癇癪を起こしやすい等、「気になる子」が増えている。その中には発達障がいを抱えているにもかかわらず、周囲に理解されないまま叱責や非難を受け、不適応に陥ってしまうことがある。このような弊害を防ごうと乳幼児期の早期発見・早期対応が叫ばれているところである。この授業では、発達障がいの理解と対応について考えていきたい。特に乳幼児期の早期発見と支援、親支援のあり方について、これまで行ってきた支援をもとに進めていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達障がいについて・・・本を通して学ぶ
3	発達障がい支援法と特別支援教育について
4	発達障がい—②注意欠陥多動性障がい、③学習障がい
5	発達障がい—①自閉症（広汎性発達障がい、高機能自閉症、アスペルガー等）
6	ビデオ学習
7	発達—乳児期
8	発達—幼児期
9	発達—児童期・思春期の発達
10	発達の気になる子の早期発見・早期対応・・・健診業務の中から
11	発達障がい—療育について
12	親支援について
13	支援者研修
14	TEACCHについて
15	ケースからみえる子どもたち
16	テスト（期末試験）

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席、レポート、期末試験（1回）を基に総合的に評価する予定である。

【テキスト】

特にテキストは使用しない。講義の単元ごとに資料を配布する予定である。

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

心理学理論と心理的支援

担当教員 一金武 育子

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する
2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する。
3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。
4. 心理的支援の方法と実際について理解する。

この授業では、以上を目的に、心理学の理論と心理的支援について考えていきます。積極的な参加と「感じる心」、個々人の意思の表明に基づく相互理解を通して、ともに作り上げていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	人の心理学的理解：認知・思考
3	人の心理学的理解：感情・情緒
4	人の心理学的理解：自己理解・他者理解
5	人の成長・発達と心理：人間発達について
6	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について①
7	人の成長・発達と心理：主要な発達理論について②
8	日常生活と心の健康：心の健康とは？
9	日常生活と心の健康：ストレス社会の実際
10	日常生活と心の健康：ストレスマネジメント
11	心理的支援の方法と実際：援助するということ
12	心理的支援の方法と実際：カウンセリング・マインド
13	心理的支援の方法と実際：交流のワーク
14	心理的支援の方法と実際：傾聴のワーク
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自主的に考え、行動し、人間理解（発達心理学）・心理的支援（臨床心理学）の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用は禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、及び、講義中の退席を基本的に禁止。
- ・必要な質問は適宜、受け付けますので、意思表示をしてください。

【評価方法】

レポートと期末試験で評価する。
コメントを適宜求める予定。

【テキスト】

特に指定せず、適宜資料配付とするが、参考文献（図書）を購入することが望ましい。

【参考文献】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版
石田 潤 他共著 「ダイアグラム心理学」 北大路書房 その他、講義中に適宜紹介する

心理検査法 I

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査について理解を深める。また、心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義や方法、専門的手法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を実際に試行し、結果を分析した上で、検査所見をまとめる実習を行う。

【授業の展開計画】

1. パーソナリティ理解のための心理検査
2. パーソナリティの構造とテスト・バッテリー
3. 心理検査と倫理問題
4. 心理検査①-1 (質問紙法・実施法と実習)
5. 心理検査①-2 (質問紙法・理論的背景)
6. 心理検査①-3 (質問紙法・所見のまとめ方)
7. 心理検査②-1 (作業検査法・実施法と実習)
8. 心理検査②-2 (作業検査法・理論的背景)
9. 心理検査②-3 (作業検査法・所見のまとめ方)
10. 心理検査③-1 (投映法その1・実施法と実習)
11. 心理検査③-2 (投映法その1・理論的背景)
12. 心理検査③-3 (投映法その1・所見のまとめ方)
13. 心理検査④-1 (投映法その2・実施法と実習)
14. 心理検査④-2 (投映法その2・理論的背景)
15. 心理検査④-3 (投映法その2・所見のまとめ方)
16. 最終レポート作成・提出

【履修上の注意事項】

使用する検査器具や図版、用紙などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は実習する心理検査についての講義を受け、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で実習を行う必要がある。また、検査結果は実習した検査ごとにレポート提出してもらう。心理検査を実施する過程での倫理上の問題等から、心理検査についての知識が重要であるため、欠席・遅刻の多い学生は受講できなくなることもある。十分に留意して受講してほしい。

【評価方法】

出席状況、提出されたレポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献】

上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック」第2版 西村出版
氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社

心理検査法Ⅱ

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学の人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。

特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する検査の実習を実際に施行し、結果を分析、検査所見をまとめる。実際に学齢期のお子さんに検査の協力をお願いし、実習を進めるため、検査に際しての心構え、倫理的な配慮について学ぶことがこの講義で一番重要となる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション / 心理アセスメントとは
2	心理アセスメントと心理検査
3	心理検査と倫理問題①
4	心理検査と倫理問題②
5	知能とは
6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴 ・ 実習前試験
7	検査器具の取り扱いと実施
8	ウェクスラー式知能検査の実施方法
9	田中ビネー式知能検査の実施方法
10	知能検査の実際と結果のフィードバック
11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理
12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方①
13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方②
14	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方①
15	まとめ 人を理解すること
16	

【履修上の注意事項】

使用する検査器具などの数に限りがあるため、受講者数を限定する。受講者は講義、自習を通し、検査の実施方法・手順等を十分に身につけた上で検査実習を行う必要がある。また、検査結果をレポートにまとめ提出してもらう。心理検査を実施する上での倫理上の重要な注意点、心理検査についての知識が不可欠であるため、遅刻・欠席の多い者は受講を認めない。*初日のオリエンテーションに重要な説明をする。参加できない者は受講を認めることができない。何らかの事情で初日のオリエンテーションに参加できない者は、事前に相談に来ること。

【評価方法】

出席状況、検査所見レポート2つ、試験（1回）、実習前課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

日本版WISC-Ⅲ知能検査 日本文化科学社 / WISC-Ⅲアセスメント事例集 藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント 上野一彦他（編）日本文化科学社 / 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版

心理統計学基礎

担当教員 泊 真児

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この講義は、「心理統計学」「心理学研究法」という心理学研究にとって重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習で取り組む基礎実験実習、心理学専門演習Ⅰ、心理学専門演習Ⅱで取り組むゼミ研究、卒業研究(論文)につながる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、演習、課題などを通して、心理学研究の中での心理統計学の位置づけや役割を理解し、今後の心理学専門科目の学習に必要な学習スキルと心理統計学の基礎を身につけることを目指します。

【授業の展開計画】

下記の授業内容を予定していますが、受講者の状況を考慮して、講義内容を変更する場合があります。

週	授 業 の 内 容
1	授業契約・オリエンテーション・統計学初歩：本講義の進め方・注意事項等の説明（※出席必須）
2	変数とデータ～心理学における測定と尺度水準～
3	信頼性・妥当性とΣ記号の意味
4	Σ記号を用いた計算&度数分布
5	度数分布とヒストグラム
6	量的データの数値要約：代表値
7	量的データの数値要約：散布度
8	正規分布とは何か？
9	標準正規分布と標準得点
10	2変数間の関係の分析1：相関（散布）図の作成
11	2変数間の関係の分析2：相関係数による数値要約
12	2変数間の関係の分析3：質的変数のクロス集計表
13	2変数間の関係の分析4：連関係数による数値要約
14	統計的検定の基礎：推測統計・標本抽出・統計的検定の原理
15	全講義内容のまとめ・振り返り・試験案内
16	学期末試験（予定） ※期末レポート課題に変更する場合があります。

【履修上の注意事項】

- 心理カウンセリング専攻1年次および2、3年次編入生にとって重要な科目となるので、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録します。第1回目講義は重要な説明がありますので、必ず出席してください。
- 心理統計学や心理学研究法について理解するためには、「自分でやってみる：自分で体験する、自分で気づき、発見する、自分で考えること」が大切です。数字アレルギーを乗り越えて、講義や演習、課題等に自ら積極的に取り組もうとする知的好奇心と自発性を持って受講して欲しいと思います。

【評価方法】

- 成績評価は、出席状況15%、参加態度30～45%、学期末課題40～55%の内訳で、これらを総合評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
- 授業への参加態度は主に、授業内での課題への取り組み、ホームワーク等により評価します。
- 学期末課題については、試験を実施する場合、参考書や資料等の持ち込みを可として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

【テキスト】

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介していきます。

心理統計学 I

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、心理学関連論文を読みとり、自ら実施した調査研究のデータ解析ができることを目指す。このためコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとり方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 尺度と変数
- 2 週目 統計パッケージSPSSについて
- 3 週目 基本当計量
- 4 週目 範囲、分散、標準偏差
- 5 週目 度数分布とヒストグラム
- 6 週目 正規分布、標準偏差
- 7 週目 データの標準化、偏差値
- 8 週目 ふりかえりテスト
- 9 週目 相関係数と散布図
- 10週目 直線回帰
- 11週目 仮説検定 2種類の誤り
- 12週目 分散比
- 13週目 2つの平均値の差の検定 (1)
- 14週目 2つの平均値の差の検定 (2)
- 15週目 対応のある平均値の差の検定
- 16週目 期末考査

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
後期に開講する心理統計学IIも履修すること。

【評価方法】

課題40%、テスト60%の比率で評価する。

【テキスト】

山内光哉 2012『心理・教育のための統計法』第3版 サイエンス社 2550+税金

【参考文献】

小塩真司 2004 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書

心理統計学Ⅱ

担当教員 大城 亘武

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心理学は人間の心や行動を研究対象とし、観察や実験、質問紙法による調査やインタビューなど、何らかのかたちで心理特性を測定して分析する。その際に有効な手段の一つが統計的手法である。本講義では、統計リタラシの養成を目標とする。すなわち、仮説検定を中心にコンピュータを用いて実際にデータ分析をおこない、分析手法の使い分け、結果の読みとりと解釈、考察の仕方について実習する。

【授業の展開計画】

統計解析は統計パッケージSPSS (Statistical Package for Social Sciences) を使用する。

- 1 週目 診断テストと解説
- 2 週目 カイ二乗分布とカイ二乗検定 (1)
- 3 週目 カイ二乗分布とカイ二乗検定 (2)
- 4 週目 カイ二乗分布とカイ二乗検定 (3)
- 5 週目 分散分析 (1)
- 6 週目 分散分析 (2)
- 7 週目 分散分析 (3)
- 8 週目 ふりかえりテスト
- 9 週目 ピアソンの相関係数の検定
- 10 週目 重相関回帰分析 (1)
- 11 週目 重相関回帰分析 (2)
- 12 週目 因子分析 (1)
- 13 週目 因子分析 (2)
- 14 週目 クラスタ分析 (1)
- 15 週目 クラスタ分析 (2)
- 16 週目 期末考査

【履修上の注意事項】

抽選となった場合は、心理カウンセリング専攻の4年次、3年次、2年次の順で優先して抽選する。
遅刻・欠席をしない。
心理統計学Ⅰを履修済みであること。

【評価方法】

課題40%、テスト60%の比率で評価する。

【テキスト】

山内光哉 2012 『心理・教育のための統計法』 (第3版) サイエンス社 ¥2550+税

【参考文献】

小塩真司 2004 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現在の児童の置かれている社会環境はもちろんのこと、児童福祉の理念、発展、制度・サービス、児童が抱える諸問題、児童家庭福祉分野の専門職及び援助活動の実際等について学ぶ。その中で、父母の第一義的養育責任とともに、社会の子育て家庭へのさまざまな支援が児童家庭福祉の重要な課題となっていることを理解する。

【授業の展開計画】

- ①オリエンテーション
- ②現代社会と子ども家庭 その1
- ③現代社会と子ども家庭 その2
- ④子どもと家庭福祉とは何か その1
- ⑤子どもと家庭福祉とは何か その2
- ⑥子どもと家庭福祉とは何か その3
- ⑦子ども家庭福祉にかかわる法制度 その1
- ⑧子ども家庭福祉にかかわる法制度 その2
- ⑨子ども家庭福祉にかかわる法制度 その3
- ⑩子ども家庭にかかわる福祉・保健 その1
- ⑪子ども家庭にかかわる福祉・保健 その2
- ⑫子ども家庭にかかわる福祉・保健 その3
- ⑬子ども家庭にかかわる福祉・保健 その4
- ⑭子ども家庭への援助活動
- ⑮振り返り
- ⑯テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、子どもを取り巻く環境(学校・教育・福祉・地域)に関心をもち、可能ならば新聞等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。さらに、児童家庭福祉に関する法改正等には注目・関心をもつこと。
なお、本科目は社会福祉士国家試験の必修科目となっているため、注意すること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合して評価する。なお、開講時間数の3分の1以上欠席(公欠除く)をすると試験が受けられないので、注意すること。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会 編集(2010)：『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(第2版)』、中央法規。

【参考文献】

ミネルヴァ書房編集部(各年版)：『社会福祉小六法』、ミネルヴァ書房。

人格心理学

担当教員 竹村 明子

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 性格心理学領域の主要な理論を理解する。
2. 人々の行動と性格の関連性について理解を深める。
3. 心理学研究における性格の取り扱いについて理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	性格の概念・測定(第1章と2章)
3	性格の諸理論(第3章)
4	類型論(第4章)
5	特性論(第5章)
6	性格の発達(第6章)
7	人間のライフサイクル(第7章)
8	親子関係と性格(第8章)
9	人間関係と性格(第9章)
10	コミュニケーションに現れる性格(第10章)
11	職業適正とは何か(第11章)
12	問題行動と性格(第12章)
13	性格の正常・異常(第13章)
14	性格の適応的变化(第14章)
15	文化とパーソナリティ(第15章)
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

担当講師からの一方的な講義とならないよう、ディスカッション等を交えながら進めていきたい。

【評価方法】

小レポート提出、課題の内容、期末テストの得点などを参考に、総合的に評価をする

【テキスト】

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊(2003). 性格心理学への招待(改訂版) 梅本堯夫・大山正(監修) サイエンス社(2205円)

【参考文献】

適宜紹介する

人体の構造と機能及び疾病

担当教員 鈴木 信 ・ 金城 利雄

対象学年 2年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 人間の発生そして出生、成長、老化にわたる人生の経過の中で、人体に加わる各種侵襲（ストレス）への対応とパターン（病気）について学ぶ。これが初等教育とは異なる大学での人間福祉心理を専攻とする基本と考えられる。2. 社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の受験のための資格科目である。国家試験に備える。3. MSW、PSW、臨床心理士、医療秘書、医療情報管理士、理学療法士等メディカルスタッフに対しても最も基礎となる知識である。4. 高校の保健福祉の教師を目指す者にも必須科目である。

【授業の展開計画】

人の体と心の発生から病態については総論として鈴木が担当する。臓器、系統別の体の仕組みと働きと主要疾患についての各論は金城が担当する。

毎回授業の終了前10分間を200文字のコメント書きにあて、それによって学生の理解力を評価する。また思いがけない若者の創意を知ることにもできる。質疑応答の時間を出来るだけ多くとって、教師や学生同士のラポールを深めるようにする。

週	授 業 の 内 容
1	(金城)
2	(鈴木) 人間福祉をすすめる講義のあり方について
3	(金城)
4	(金城)
5	(金城)
6	(鈴木) 病因と健康因を理解する。健康と病気との段階的な病態に応じた診療のあり方を知る
7	(鈴木) 医学と医療学、医療の供給と受療様態、医療者と受療者に関する医療心理学
8	(鈴木) 生殖・妊娠・分娩の意義と経過、身体と生命の発生について知る
9	(鈴木) ストレスに対する内部環境のコントロール、内分泌、免疫、自律神経による制御と破綻
10	(金城)
11	(金城)
12	(鈴木) 人間の寿命の歴史の変遷に応じた医療制度や医療システムの対応
13	(鈴木) 先端医療と総合医療、未病ケアとサルトジェネーシスについて
14	(鈴木) 質疑応答と総括
15	テスト
16	予備

【履修上の注意事項】

(鈴木分) 1. 毎回コメント用紙を授業開始時に配布し、終了時に提出する 2. コメントの解答状況によって加点したり減点したりする 3. 20分以降の遅刻者は欠席とする 4. 公欠の承認は大学公認の欠席届を該当カリキュラムの一週間以内に提出した場合に限る。無断欠席は - 2点、公欠は - 1点とする 5. 欠席者は1週間以内に自製のコメントを提出する 6. 欠席の場合、コメント用紙の提出がないとコメント点が - 2点 7. 配点は鈴木50点、金城50点とする

【評価方法】

(鈴木分) 1 出席点25点 2 コメント点25点 遅刻、早退は4回をもって1回欠席とする

【テキスト】

【参考文献】

- 1 配布した資料
- 2 医療科学
- 3 新・社会福祉士養成講座「人体の構造と機能及び疾病」

スクールソーシャルワーク論

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーク（以下、SSW）が必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにSSWの基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の目的等
2	学校における現代的課題 その1
3	学校における現代的課題 その2
4	SSWとは？ その1
5	SSWとは？ その2
6	SSWとは？ その3
7	SSWの歴史と動向
8	学校教育の特徴
9	教育(学校)が連携する機関とその機能
10	SSWの基礎理論
11	SSWの展開過程 その1
12	SSWの展開過程 その2
13	SSW実践 その1
14	SSW実践 その2
15	SSWの課題と展望
16	学期末テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、SSWに限らず、子どもを取り巻く環境(学校・地域)に関心をもち、可能ならば新聞等マスコミで取りあげられる記事をスクラップすること。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び学期末試験を総合して評価を行う。

【テキスト】

山野・野田・半羽編著(2012)：『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。

【参考文献】

山下ほか編著(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』学苑社。門田光司(2010)：『学校ソーシャルワーク実践』ミネルヴァ書房。学校SW学会編(2008)：『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』中央法規。

ストレス・マネジメント

担当教員 上田 幸彦、他5名

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスについての基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的な支援技法について学ぶ。心理学的な支援技法については、実技も取り入れ、受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対応し、自らの心身の健康の維持増進に資することもねらう。本講義は、専任教員と臨床現場で活躍する臨床心理士がオムニバスで担当し、地域での心理学専門家の役割についてもふれる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション/ストレスとは何か
2	ストレスと身体・ストレス関連疾患
3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因
4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究
5	ストレス援助要因②対人関係とその研究
6	ストレスの測定と評価
7	対処法/リラクゼーション総論
8	理論：自律訓練法
9	実技：自律訓練法
10	理論と実技：呼吸法
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想
12	理論：動作法
13	実技：動作法
14	理論と実技：認知行動療法①
15	理論と実技：認知行動療法②
16	試験

【履修上の注意事項】

実技も行うので、真剣に、積極的に取り組んでほしい。

【評価方法】

出席状況・受講態度・授業中に行うミニレポート・試験結果を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する。

精神科リハビリテーション学

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

障害の種類にかかわらず、ノーマライゼーションの実践は地域におけるリハビリテーションを前提とする。精神障害者を対象としたリハビリテーションは、精神障害という性質からくる独自性が存在する。当事者として、家族として、市民として、そして人間として、障害とそして精神障害とともに生きることを考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	精神科リハビリにかかわる機関－保健所等
2	精神障害と精神疾患Ⅰ	18	その他関係機関
3	精神障害と精神疾患Ⅱ	19	リハビリテーション実践（計画・アセス）
4	障害者リハビリテーションという考え方	20	疾病の経過・ライフサイクル
5	精神科リハビリテーションの歴史・考え方	21	作業療法、レクリエーション療法
6	精神障害者をとりまく環境・制度（日本）	22	集団精神療法
7	精神障害者をとりまく環境・制度（国外）	23	行動療法（理論と実践）
8	精神科リハビリテーションの対象	24	認知行動療法（理論と実践）
9	リハビリテーションにおける精神保健福祉士	25	心理教育実践
10	チームをつくる	26	SSTの実際
11	脱施設化について	27	デイナイトケア
12	病院精神医療の現状	28	社会的状況でのリハビリテーション
13	社会復帰施設と社会資源	29	軽症うつ病、不安障害のリハビリ
14	社会復帰施設と社会資源Ⅱ	30	児童・思春期への実践／まとめ
15	前期まとめ	31	
16	精神科リハビリにかかわる機関－医療		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

提出物（宿題・講義中の課題）、授業への参加態度、学期末試験を総合的に評価をだす。

【テキスト】

『新・精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学』（精神保健福祉士養成講座編集委員会編集、中央法規）

【参考文献】

『リカバリーへの道』（マーク・レーガン著、前田ケイ監訳 金剛出版）
『精神科リハビリテーション学』（蜂矢英彦、岡上和雄監修 金剛出版）

精神疾患とその治療

担当教員 知名 孝 他

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この講義では、精神医学の基礎（生物・神経学的、心理学的基礎、疾患・症状という基礎概念、その他精神医学理解のための基礎知識）に関する学習を行う。それをふまえ、各論では代表的な精神疾患についての学習を行っていく。治療論・リハビリテーション論のなかでは、医療的側面だけでなく、福祉、行政、教育、そして社会状況等の要因、あるいは地域文化に根ざした治療など、精神科サービスに付随する様々な取組みも含め紹介・学習していく。

【授業の展開計画】

この講義は医療機関の勤務医を中心にオムニバス方式で講義を行っていく。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入・オリエンテーション（知名）	17	気分障害（躁うつ病含む）（長田）
2	精神医学の基礎（才木）	18	気分障害（躁うつ病含む）（長田）
3	精神医学の基礎（才木）	19	心理発達の障害（仲俣）
4	精神医学の基礎（才木）	20	小児期および青年期の疾患（仲俣）
5	症状性を含む器質性精神障害（小林）	21	職場環境と精神疾患（山本）
6	症状性を含む器質性精神障害（小林）	22	職場環境と精神疾患（山本）
7	精神作用物質使用（福田）	23	医療観察法と精神障害（唐木）
8	精神作用物質使用（福田）	24	医療観察法と精神障害（唐木）
9	統合失調症（才木）	25	ジェンダー問題と精神疾患（竹下）
10	統合失調症（才木）	26	ジェンダー問題と精神疾患（竹下）
11	統合失調症・治療の方法（才木）	27	心理臨床実践と精神医学（平安）
12	地域精神医療（知念）	28	心理臨床実践と精神医学（平安）
13	地域精神医療（知念）	29	後期の振り返り
14	神経症性障害（仲俣）	30	テスト
15	人格障害（仲俣）	31	テストの解答・解説
16	前期のまとめ（知名）		

【履修上の注意事項】

この講義は複数講師によるオムニバスにより行われます。

【評価方法】

講義第1回目のオリエンテーション資料に記されたスケジュールと内容に従って、年間の課題が出される。その課題の提出状況、出席、各講師の講義の要約と感想、期末テストを総合的に評価を行う。

【テキスト】

『新・精神保健福祉士養成講座 1 精神疾患とその治療』（日本精神保健福祉士養成校協会編集・中央法規）

【参考文献】

精神保健の課題と支援

担当教員 渡邊 浩樹

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この20年足らずの間に社会福祉士、精神保健福祉士や臨床心理士などメンタルヘルスを取りまく資格制度が充実されてきた。それと同じくして、昨今の児童青年期が被害・加害として巻き込まれた凶悪事件、中高年の自殺、職場における精神疾患特にうつ病の問題、性犯罪の問題、軽度（高機能）発達障害の問題など、以前には比較にならないほどの多様なニーズと問題を精神保健福祉はつきつけられている。本講義では精神医療、保健、福祉など様々な現場に対応すべく、精神保健福祉の多様なニーズを紹介しながら問題提起と議論を深めていきたい

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・講義への導入	17	ひきこもり（学校・家庭の精神保健）
2	「精神」保健と社会	18	軽度（高機能）発達障がいと精神保健
3	精神保健の概要	19	児童思春期のうつ病
4	精神疾患について（レビュー）	20	その他児童思春期の精神保健について
5	精神疾患について（レビュー）	21	DVと精神保健
6	ライフサイクルと精神保健福祉（乳幼児期）	22	児童虐待と精神保健
7	ライフサイクルと精神保健福祉（就学前期）	23	中高年の自殺、うつ病、EAP
8	ライフサイクルと精神保健福祉（学童期）	24	アルコール依存症
9	ライフサイクルと精神保健福祉（青年前期）	25	薬物依存症
10	ライフサイクルと精神保健福祉（青年後期）	26	慢性精神疾患と保健・福祉
11	ライフサイクルと精神保健福祉（成人期）	27	慢性精神疾患と保健・福祉
12	ライフサイクルと精神保健福祉（中高年期）	28	諸外国の精神保健福祉
13	精神障害者に対する精神保健福祉	29	
14	老人性痴呆疾患対策	30	全体のまとめとテスト
15	前期まとめ及びテスト	31	
16	いじめと登校拒否（学校精神保健）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストおよび課題

【テキスト】

講義のなかで指示する。

【参考文献】

精神保健福祉援助技術各論

担当教員 高橋 忍

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

精神保健福祉領域における援助ならびに援助者としての視点等について学んでいく。
内容としては、精神障害者の疾病および障害特性を考慮した上での、生活援助に必要とされる個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術等について総合的な理解を深め、その援助課程における精神保健福祉士の役割や業務内容についての知識および技術について学んでいく。さらに視聴覚教材等を用いて、欧米、日本国内等で開発され、現在、取り組まれているモデル等についても紹介をし、複合的な視野を持つ一助としたい。

【授業の展開計画】

講義のなかで詳細説明する。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト

【テキスト】

【参考文献】

精神保健福祉に関する制度とサービス

担当教員 熊谷晋（15回）、眞栄城兼秀（5回）、比嘉俊江（10回）

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

精神障害者には我々と等しく社会の中に在りながら、あらゆる権利を奪われてきた歴史がある。その一方で、精神障害者を取り巻く状況—法律、制度、サービス等—は変化し、動き続けている。彼らを支援する精神保健福祉士に求められることは、彼らが歩んできた歴史、現在の状況を知り、より豊かに生きていこうとする過程を彼らの決定を尊重しつつ支援すること。そしてそのために、法律や制度、サービスなどの知識が必要であるということを理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	精神障害者の現状—精神医療現場から	17	支援者と当事者の関係について
2	精神障害者の相談援助活動—歴史・Y問題	18	福祉サービスについて
3	精神障害者の相談援助活動について	19	福祉サービスについて
4	精神保健福祉法成立まで—経過・意義・課題	20	福祉サービスからみる制度の根拠
5	精神保健福祉法成立まで—経過・意義・課題	21	福祉サービスからみる制度の根拠
6	精神保健福祉法について	22	福祉制度が保障することで行われる課題
7	精神保健福祉法について	23	ノーマライゼーション振り返り
8	社会保障制度の概要—相談事例から	24	支援する者と支援を受ける者の関係性
9	社会保障制度の概要—相談事例から	25	これからの福祉について語り合う
10	精神障害者と精神保健福祉士	26	更生保護制度の概要
11	障害者基本法成立の背景	27	司法・医療・福祉の連携の必要性和実際
12	障害の定義について	28	医療観察制度の概要
13	ノーマライゼーションの理念	29	司法・医療・社会復帰調整官の役割①
14	ICIDHとICFについて	30	司法・医療・社会復帰調整官の役割②
15	WHOの健康の定義について	31	まとめ
16	ICFの活用と課題について		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、課題提出状況などにより評価する

【テキスト】

講義のなかで指示する

【参考文献】

生理心理学 I

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学の研究方法のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は、最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して、より重要性を増している。生理心理学 I では、こういった現状を鑑み、脳神経系の基礎を重点的に学習する。

【授業の展開計画】

- 1 生理心理学とは
- 2 脳の構造
- 3 //
- 4 ニューロンとシナプス
- 5 //
- 6 感覚・知覚と脳
- 7 //
- 8 運動と脳
- 9 //
- 10 本能と脳
- 11 //
- 12 情動と脳
- 13 //
- 14 自律神経系及び内分泌系と脳
- 15 //

16回目にテストを行う。

【履修上の注意事項】

I、IIの順で続けて履修することが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

生理心理学Ⅱ

担当教員 遠藤 直子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生理心理学には、心理的事象の生理的基礎の解明を目指す狭義の生理心理学と、心身の相互関係や心理的状态に対応する生理反応の測定解析を行う心理生理学が含まれている。本講義では、広義の生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説することを試みる。生理心理学Ⅱでは、認知過程に関する神経心理学的研究及び、脳波に基づく心身の相互関係等について概説する。

【授業の展開計画】

- 1 オリエンテーション及び脳神経系に関する基本事項の復習
- 2 薬物と脳（オピオイド、覚醒剤、アルコール等）
- 3 〃
- 4 〃
- 5 言語と大脳半球機能差（言語野と失語症）
- 6 〃（言語機能と性差）
- 7 〃（右半球症状から見た半球機能差）
- 8 脳波の基礎（測定法・分析法）
- 9 〃（基本の脳波と異常脳波）
- 10 〃（睡眠と脳波及び脳波の利用）
- 11 誘発電位と事象関連電位
- 12 事象関連電位、特にP3の特徴と利用
- 13 ストレスとリラクセーション（ストレス時の反応）
- 14 〃（測定法）
- 15 〃（ストレス反応のコントロール） 16回目にテストを行う。

【履修上の注意事項】

生理心理学Ⅰを先に履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験（1回）及びレポート（1本）の結果により評価する（試験8割、レポート2割）。試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義時に説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合、単位を与えない。

【テキスト】

特に指定しない。講義毎に資料を配付する。

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

広くは「児童家庭福祉」をテーマとするが、全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。

また、授業のねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。

【授業の展開計画】

子どもの抱える問題の背景には保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることができない。そのため、子どもを取りまく環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。

ゼミでは特に「スクールソーシャルワーク」と「ソーシャルワークスキル」に焦点をあてて展開する。その柱は下記に示す。

「スクールソーシャルワーク」

- ・その現状及び課題
- ・諸外国の現状（英書購読含む）
- ・学校等関係機関訪問 等

「ソーシャルワークスキル」

- ・社会福祉専門職（社会福祉士）として現場で求められるスキル（対個人・グループ）の修得
- ・各機関・施設の社会福祉士らとの交流 等

なお、現場理解のためにボランティア活動及びゼミ単位での施設・機関への訪問も計画している。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

必要に応じ開講時に提示する。

専門演習 I

担当教員 小柳 正弘

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「福祉」「人間」「自我」「倫理」「自由」「障害」などとの関わりについて、理念と現実の両面をみすえた社会哲学の見地から、さまざまに考察を試みたい（学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる）。哲学は本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に（ときに根底的に）検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。

【授業の展開計画】

このゼミでは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、人間や福祉のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざします。また、議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。

第1回～第3回 自己紹介の方法、論文作法、1年次の回顧（基礎演習を中心に）、面接

第4回～第5回 調査法と論文作法について

第6回 その後の、具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについて概要を決定

半期に最低1回は具体的な議論のテーマや議論の素材を参加者それぞれに提案してもらいます。

とりあえず素材になりそうなもの

… 芸術療法というケアのありかた、園芸福祉実践、障害をどうとらえるか、ホームレスという人生など

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

谷・芦田編著『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。
倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」』講談社ブルーバックス。
その他、授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習のねらいは、高齢社会を迎え、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、高齢社会を背景として、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材が強く求められていることから、包括的ケア概念のゼミ演習を中心として展開する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	専門演習ガイダンス	17	グループ課題の報告1、2グループ
2	グループエンカウンター①仲良くなるろう	18	グループ課題の報告1、2グループ
3	グループエンカウンター②仲良くなるろう	19	医療施設見学グループ編成
4	断酒会参加グループ編成	20	医療ソーシャルワーカーの役割
5	断酒会について学ぶ	21	患者様・・・・・・・・
6	断酒会について学ぶ	22	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）
7	学外講師招聘（患者会会長招聘）	23	医療に関わる社会的課題①
8	話題提供 認知症	24	医療に関わる社会的課題②
9	話題提供 医療保険	25	医療に関わる社会的課題個人報告①
10	話題提供 介護保険	26	医療に関わる社会的課題個人報告②
11	話題提供 医療施設の種類	27	医療に関わる社会的課題個人報告③
12	話題提供 介護保険施設の種類	28	医療に関わる社会的課題個人報告④
13	生活習慣病を知ろう①	29	医療に関わる社会的課題個人報告⑤
14	生活習慣病を知ろう②	30	後期振り返り
15	生活習慣病を知ろう③	31	1年間を振り返って
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

本専門演習を履修する学生は、医療福祉論、社会保障、保健医療サービス、高齢者に対する支援と介護保険制度の科目を同時履修することが望ましい。

【評価方法】

演習への出席、受講態度、意見発表の積極性、課題提出状況など総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

演習時に随時紹介する。

専門演習 I

担当教員 知名 孝

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

1. 発達理論：エリクソン、フロイト、M. マーラー、ボウルヴィーなどの発達理論から、人の成長・発達について考えていく。
2. 診断学：発達障害、子ども特有の精神疾患について掘り下げて学習する。DSMやICDなどの疾患分類をきちんと把握する。行動アセスメント・心理アセスメントが理解できるようにする。
3. 地域支援：自立支援法におけるサービスについて制度上の学習、自立支援協議会とそれに付随した分科会の果たす役割。様々な公的機関、各種事業所の役割。
4. 支援理論：支援理論については以下のようにまとめられる。
 - i) ソーシャルワーク理論：機能主義的理論からシステムズ理論に影響されたソーシャルワーク理論、そして昨今のナラティブアプローチなどのソーシャルワーク理論。特に「調整」に関する支援理論を中心に。
 - ii) グループ実践：SST（ソーシャルスキル・トレーニング）、心理教育プログラムなど。
 - iii) ミリエュー（生活場面介入）：TEACCHやABAなど、施設生活・児童デイ生活のなかで具体的な介入のための支援理論を中心に。
 - iv) 面接法：地域支援は人とのやりとり。やりとり法（＝面接法）はSWにとって重要な技術。
5. 実習・実践：児童デイサービスや日中一時支援、児童思春期心療内科クリニックなどでボランティア実習、自立支援協議会の見学、自立支援協議会圏域部会の見学、（ある市町村の）性行動問題部会の見学など。
6. 社会的に考える視点：「子ども達の行動の問題」が投げかける意味（唯物論的意味の検証）、「診断」、「障害」という現象の社会構成主義的認識。

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

【テキスト】

ゼミのなかで指定していく

【参考文献】

ゼミのなかで指定していく

専門演習 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは、沖縄の若者世代が抱える今日的な問題を労働、文化、政治の領域に絞り込み、社会学的な視野で調査研究を行う。沖縄は日本の一県にとどまらず、社会的、文化的、政治的に特殊な状況にあり、若者たちの生活や意識のありようにも少なからず影響を及ぼしているものと考えられる。以上のテーマを社会学的に探究することは、今日の沖縄社会の構造およびこれからの沖縄社会の変動を見通すうえで重要である。当ゼミでは社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、上記諸問題の洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「沖縄における若者世代の今日的な問題に関する社会学的研究」と題する。すなわち、沖縄の若者たちの生活と意識のありようを労働、文化、政治の領域で具体的に引き上げ、社会学的に分析していこうというものである。

2年次（専門演習I）では、前期に社会学の基本的な概念や視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、若者の労働、文化、政治に関する社会学的な文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

3年次（専門演習II）ゼミでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」を履修すること。

【評価方法】

専門演習Ⅰは、3年次「専門演習Ⅱ」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性も評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習 I

担当教員 岩田 直子

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

- ①社会的排除と包摂をキーワードに、福祉ニーズの解決に向けた新たな支援関係編成について追究する。
- ②中でも、新たな社会の担い手として期待されているNPO活動について、多角的に研究する。
- ③沖縄の地域社会の問題を理解し、解決に向けて何が出来るか研究し、小研究としてまとめる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション①演習の目的について	17	夏休みの活度報告会②
2	オリエンテーション②年間計画	18	社会的起業に関する文献購読①
3	協働に関する文献購読①	19	社会的起業に関する文献購読②
4	協働に関する文献購読②	20	論文の書き方について
5	協働に関する文献購読③	21	小研究の準備①
6	協働に関する文献購読④	22	小研究の準備②
7	NPO活動支援センター訪問	23	小研究の準備③
8	県社会福祉協議会訪問	24	NPO団体訪問
9	ゲストスピーカーによる実践報告	25	ゲストスピーカーによる実践報告
10	グループ研究～理論を中心に～①	26	中間報告会①
11	グループ研究～理論を中心に～②	27	中間報告会②
12	グループ研究～理論を中心に～③	28	中間報告会③
13	グループ研究発表会①	29	報告集作成①
14	グループ研究発表会②	30	報告集作成②
15	夏休みの活動について	31	
16	夏休みの活動報告会①		

【履修上の注意事項】

- ①演習はゼミ生どおしが活発に関わりあい、知識や経験を共有し、互いに高めあう場である。個々の学生がゼミの仲間と積極的に学びあうことが期待される。
- ②学外の活動やイベント（NPOに関する講演会や研究会、NPO団体の活動など）に積極的に参加することが期待される。
- ③演習時には研究論文を多数読む。日頃から図書館を活用して知識を広げることが期待される。

【評価方法】

- ①演習で取り組む課題の内容
- ②演習および学生による自主的な活動への積極的な参加状況
- ③出席状況
- その他

【テキスト】

第1回演習時に提示する

【参考文献】

第1回演習時に提示する

専門演習Ⅱ

担当教員 岩田 直子

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・社会的排除と包摂に関して、その理論を学ぶと共に、包摂の現状や課題について学ぶ。
- ・参加学生の関心分野においてどのような実践が行われているのか、どのような課題があるのか深く追究する。
- ・論文作成を通して研究することの楽しさと意義を理解する。

【授業の展開計画】

前期は、より議論を深めるために、ディベートを行う。また、課題研究に向けて個人面談を行う。
後期は、課題研究の中間報告を中心に演習を進める。

【履修上の注意事項】

- ・ボランティアや実習、講義等でみつけた各自の関心テーマを深く研究することを目標とする。なので、演習時間以外にも、積極的に関連する団体に関わることを期待する。
- ・図書館を活用し、広く視野を広げることを期待する。
- ・ゼミ生どおし互いに高めあい、成長しあうことを期待する。

【評価方法】

出席状況、レポート提出状況およびレポート内容、議論への積極的参加など

【テキスト】

随時、文献および資料を紹介する

【参考文献】

専門演習Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

当演習ゼミは、沖縄の若者世代が抱える今日的な問題を労働、文化、政治の領域に絞り込み、社会学的な視野で調査研究を行う。沖縄は日本の一県にとどまらず、社会的、文化的、政治的に特殊な状況にあり、若者たちの生活や意識のありようにも少なからず影響を及ぼしているものと考えられる。以上のテーマを社会学的に探究することは、今日の沖縄社会の構造およびこれからの沖縄社会の変動を見通すうえで重要である。当ゼミでは社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆までをとおして、上記諸問題の洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場にしていく。

【授業の展開計画】

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。そのテーマとは「沖縄における若者世代の今日的な問題に関する社会学的研究」と題する。すなわち、沖縄の若者たちの生活と意識のありようを労働、文化、政治の領域で具体的に取り上げ、社会学的に分析していこうというものである。

2年次（専門演習Ⅰ）では、前期に社会学の基本的な概念や視覚の学習を行なう。夏期休暇期間中は、先行的な研究の文献・資料等の収集と、社会調査の予備訓練を行う。後期は、若者の労働、文化、政治に関する社会学的な文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

3年次（専門演習Ⅱ）ゼミでは、調査方法、調査項目立てや質問紙づくり、および調査実習に関する企画設計を行い、夏期休暇期間中の社会調査実習に備える。社会調査の実施は8月下旬か9月上旬を予定している。後期は調査実習で得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。なお、調査予定地は沖縄島の中南部都市圏の中から取り上げていく。

【履修上の注意事項】

1～2年次で「社会調査の基礎」「社会調査の企画と設計」および「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。また、自分自身の関心や研究テーマに応じて「都市社会学Ⅰ・Ⅱ」ならびに「家族社会学Ⅰ・Ⅱ」を受講すること。

【評価方法】

専門演習Ⅰは、3年次「専門演習Ⅱ」の調査実習に向けての準備期間、予備的調査（資料収集、共同学習、成果発表）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、出席状況や受講中の態度、共同学習に対する積極性は当然評価の必須項目とする。

【テキスト】

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

【参考文献】

予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

「専門演習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、「専門演習Ⅱ」では、各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文講読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉現場や教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ゼミのねらいとして、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。ゼミ後半では、次年度の卒論を見据えて「課題研究」に取り組む。

【授業の展開計画】

子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に、子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。

以下に「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護（施設養護・家庭養護）」及び「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。

- ①「子どもの貧困」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ②「児童虐待」
 - ・その現状及び課題
 - ・諸外国の現状 等
- ③「社会的養護」
 - ・施設養護（本体施設・グループホーム）及び家庭養護（里親・ファミリーホーム）それぞれの現状及び課題
 - ・諸外国の現状
 - ・児童福祉施設・機関訪問 等
- ④「スクールソーシャルワーク」
 - ・その役割・機能
 - ・その現状と課題
 - ・学校等関係機関訪問 等

なお、学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。

また、後期には「課題研究」に取り組む。
上記の学びを活かして個人の関心のあるテーマを選定し進める。

【履修上の注意事項】

本科目の主旨を理解し、積極的に授業に参加すること。

【評価方法】

本科目の主旨を鑑み、授業態度（積極的な参加等）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。

【テキスト】

必要に応じ開講時に提示する。

【参考文献】

子どもの貧困白書編集委員会編(2009)：『子どもの貧困白書』、明石書店。日本子ども家庭総合研究所編(2009)：『子ども虐待対応の手引き』、有斐閣。山野・野田・半羽編(2012)：『よくわかるスクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。山下・内田・牧野編(2012)：『新スクールソーシャルワーク論』、学苑社。

専門演習Ⅱ

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本専門演習Ⅱの目的は2点である。①我が国の医療構造を理解する。特に、病院完結型医療から地域完結型医療への推進による「地域連携」のあり方について理解を深める。②「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	17	後期オリエンテーション（計画・調整）
2	我が国の医療資源①人・物・財	18	課題研究テーマ決定のための面談
3	我が国の医療資源②病院・診療所	19	課題研究テーマ決定のための面談
4	沖縄県における医療資源①医療施設	20	課題研究テーマ決定のための面談
5	沖縄県における医療資源②医療施設	21	患者を理解する④社会人招聘（患者会）
6	演習：医療を理解する①	22	課題研究テーマ決定のための面談
7	演習：病院を理解する②	23	課題研究テーマ・研究計画報告
8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	24	課題研究テーマ・研究計画報告
9	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	25	課題研究テーマ・研究計画報告
10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	26	課題研究取り組み中間報告
11	演習：MSWを理解する②面接調査（グループ）	27	課題研究取り組み中間報告
12	演習：MSWを理解する③面接調査（グループ）	28	報告会：演習成果を全員で共有する。
13	演習：MSWを理解する④面接調査（グループ）	29	報告会：演習成果を全員で共有する。
14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	30	報告会：演習成果を全員で共有する。
15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	31	振り返り
16	前期振り返り		

【履修上の注意事項】

専門演習については、課題研究のとりくみを中心としたゼミを展開する。各人の研究内容を共有するために毎回進捗状況を報告させる。そのため、ゼミへの出席は必須であるため欠席しないように努めること。

【評価方法】

ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究中間報告及び最終報告書の提出をもって総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。

【参考文献】

①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他 ②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他 ③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千恵子 ④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

専門演習Ⅱ

担当教員 小柳 正弘

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

学生自身がその重要性を他者に伝えたいと感じている問題であれば、どのような問題でも私のゼミでは議論のテーマとすることができる。哲学は本来、対話を通して常識や自分自身の考え方・感じ方をのりこえ、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討することをめざすものなので、この授業でも教員が諸説を紹介するのみならず、学生それぞれが考えていることや感じていることを書いたり話したりするかたちで「ともに考える」ことを中核に据える。3年次は卒論に向けて調査や文献探索など具体的な作業に着手する。

【授業の展開計画】

このゼミでは、参加者それぞれの問題意識をできるだけ活かしつつ、みんなで議論しながら、人間や福祉のありかたに関わるさまざまな問題について、あれこれ考えてみることをめざします。また、議論の素材としては、文献だけでなく、映像やフィールド・ワークのようなものも積極的に導入します。

第1回～第3回 自身の研究テーマについて、面接

第4回～第5回 調査法と論文作法について

第6回 その後の、具体的なテーマ、議論の素材とする文献、映像、フィールド・ワークについて概要を決定

*並行して、各人の研究テーマについて発表、議論

【履修上の注意事項】

授業に主体的に参加することが肝要。みずから学ぶ意欲のある受講生をのぞむ。

【評価方法】

授業への参加、報告、レポートの総合評価で成績を判断します。

【テキスト】

谷・芦田編著『よくわかる質的社会調査 技法編』ミネルヴァ書房。
倉島保美『論理が伝わる世界標準の「書く技術」』講談社ブルーバックス。
授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

担当教員 知名 孝

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

最近、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー障害、軽度知的障害）、児童思春期の精神疾患（うつ病・不安障害・リストカット・摂食障害・その他）などの問題が、生活問題・家庭の問題への発展していくことが多く見られます。このゼミでは、これらの「問題」の医学的定義、家族生活、地域生活での具体的問題を学習し、これら問題についてどのような支援が行われていくべきかを問い続けながらゼミを進行していこうと考えています。現在の福祉制度のなかで、どのような支援が行われていくべきかに焦点をあてていこうと思います。

【授業の展開計画】

前半は児童思春期のメンタル、虐待ひきこもりや児童虐待等と関連する生活問題について理解を深めていけるような学習をすすめていくようにしたい。後半は学生それぞれが自らの興味関心を見つけることができ、次年度の卒業論文研究へとつなげられるような学習をすすめていく。

【履修上の注意事項】**【評価方法】**

出席、課題提出、ゼミ活動への参加態度・状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

テキストおよび参考文献についてはゼミの中で連絡する。

【参考文献】

相談援助の基盤と専門職

担当教員 一竹藤 登

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

「相談援助の基盤と専門職」では、まず社会福祉専門職としての社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解する。相談援助の概念と範囲、理念についても理解する。さらには、相談援助に係る専門職の概念、範囲及び専門倫理についても理解する。

それらを踏まえた上で、総合的かつ包括的な援助と他職種間の連携の意義と内容について学びを深める。

【授業の展開計画】

前期	後期
① オリエンテーション・授業の説明	① 後期オリエンテーション・授業説明
② 社会福祉士の役割と意義 その1	② 専門職倫理と倫理的ジレンマ その1
③ 社会福祉士の役割と意義 その2	③ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その2
④ 相談援助の定義と構成要素 その1	④ 専門職倫理と倫理的ジレンマ その3
⑤ 相談援助の定義と構成要素 その2	⑤ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その1
⑥ 相談援助の形成過程Ⅰ その1	⑥ 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 その2
⑦ 相談援助の形成過程Ⅰ その2	⑦ 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論
⑧ 相談援助の形成過程Ⅱ その1	⑧ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その1
⑨ 相談援助の形成過程Ⅱ その2	⑨ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その2
⑩ 相談援助の形成過程Ⅱ その3	⑩ 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 その3
⑪ 相談援助の理念Ⅰ その1	⑪ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その1
⑫ 相談援助の理念Ⅰ その2	⑫ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その2
⑬ 相談援助の理念Ⅰ その3	⑬ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その3
⑭ 相談援助の理念Ⅱ その1	⑭ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その4
⑮ 相談援助の理念Ⅱ その2	⑮ 総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能 その5
⑯ 前期末テスト	⑯ 後期末テスト

【履修上の注意事項】

私語は慎み、授業には積極的に取り組むこと。また、社会福祉専門職（社会福祉士等）を取り巻く環境に関心をもち、可能ならば新聞・テレビ等のマスコミで取り上げられる記事をスクラップすることを望む。

特に、関連する法改正等には注目・関心をもつこと。

【評価方法】

授業態度、出欠状況、レポート及び前・後期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、中央法規。

【参考文献】

柳澤孝主・坂野憲司編（2009）：『相談援助の基盤と専門職』、弘文堂。

相談援助の理論と方法

担当教員 知名 孝、他

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 8

【授業のねらい】

ここ数年相談支援が委託事業化されることにより、ケアマネジャーや相談支援専門員といわれる、相談支援の専門家が地域の支援サービスの中核として存在しはじめています。この講義では、ソーシャルワークを中心につくりあげられた「相談支援」という実践のあり方・考え方を紹介することを目的とする。ケースワーク、グループワーク、様々な協議会を通じたワークの現実、資源を立ち上げること、社会的支援を組み立てることなど、ソーシャルワーカーとして必要とされる多様な活動の概要にふれていきたい。

【授業の展開計画】

ソーシャルワーカーとして持っていたいいくつかの視点（パラダイム）、理論などの概論と具体的な技法（面接、介入技法など）を組み合わせた講義の構成となっている。前期は知名孝、後期は島村聡を中心に現場実践をリードする講師によるオムニバス講義を展開する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	社会福祉実践とは何か	17	ケアマネジメントの理論と実践
2	ソーシャルワーク実践ってどんなもの？	18	利用者・家族の想いを聴く
3	様々なソーシャルワーク実践形態	19	アセスメントと個別支援計画作成
4	SW理解のためのいくつかの視点（1）	20	社会資源をつくりだす
5	SW理解のためのいくつかの視点（2）	21	支え合うためのグループワーク
6	医療モデル、生活モデル、社会モデル	22	生活場面における支援実践（1）
7	「資源」について—formal vs informal	23	生活場面における支援実践（2）
8	相談援助の展開過程（1）	24	生活場面における支援実践（3）
9	相談援助の展開過程（2）	25	地域活動支援センターの相談支援
10	「契約」について	26	病院場面における相談支援
11	地域支援システム	27	高齢者支援のための相談支援
12	精神分析の考え方とソーシャルワーク	28	ひきこもり・ホームレスと相談支援
13	システム理論・生態学的アプローチ	29	母子保健・療育・教育と相談支援
14	行動変容理論・課題中心アプローチ	30	事例検討
15	ポストモダニズムとナラティブ	31	後期まとめ、1年のまとめ
16	前期のまとめ（テスト）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の内外で出される課題（毎週だされる課題、講義中のグループワークその他の課題）の提出状況、そして前期・後期に行われる試験の結果を総合的に評価をだす。

【テキスト】

社会福祉士養成講座 『相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ』（最新版）、中央法規

【参考文献】

各担当教員が随時紹介する。

卒業演習

担当教員 岩田 直子

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱで積み上げた研究成果を振り返りつつ、卒業論文を作成することを目標とする。論文を作成するプロセスにおいては、自分の研究を深めると共に、他のゼミ生の研究成果からも学び、互いに高め合いながら社会福祉を学術的に問う。

演習では、パワーポイントやレジュメを準備して研究成果を伝える練習も行う。

【授業の展開計画】

前期：

- ①研究計画作成
- ②個人面談
- ③中間報告

後期：

- ①個人面談
- ②中間報告
- ③卒業論文集の作成
- ④発表会

【履修上の注意事項】

卒業論文作成においては、主体的に取り組む姿勢が求められる。

また、講義や就職活動、国家試験の準備等との両立を図るための工夫と努力が求められる。先行研究、先行調査を収集する際、図書館の機能を活用することを勧める。

【評価方法】

卒業論文作成の取り組み状況
ゼミ活動への積極的参加
出席状況

【テキスト】

【参考文献】

演習の時間に随時情報提供する。

卒業演習

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、まず、問題・課題を含むテーマを決定し（問題発見）、それについて資料収集・社会調査を実施して論理的・実証的に論述（批判的検討）していく。最終的には、テーマに含まれる問題・課題について結論が導き出される（問題解決）ことになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	データ入力・集計方法2
2	卒論作成に向けて概説	18	データ入力・集計方法3
3	卒論研究プロトコル作成法	19	データ集計・分析・執筆1
4	論文の書き方①	20	データ集計・分析・執筆2
5	論文の書き方② 文献、論文検索	21	データ集計・分析・執筆3
6	卒論テーマ作成のための個人面談1	22	データ集計・分析・執筆4
7	卒論テーマ作成のための個人面談2	23	データ集計・分析・執筆5
8	卒論テーマ作成のための個人面談3	24	データ集計・分析・執筆6
9	卒論テーマ作成のための個人面談4	25	卒論発表会1
10	卒論テーマの決定とプロトコル作成	26	卒論発表会2
11	卒論プロトコル提出	27	卒論発表会3
12	調査票作成1	28	卒論・ゼミ論集制作1
13	調査票作成2	29	卒論・ゼミ論集制作2
14	調査依頼	30	卒論・ゼミ論集制作3
15	データ入力方法講義（CPU室にて）	31	振り返り
16	データ入力・集計方法1		

【履修上の注意事項】

初回のゼミ時間に研究テーマにしたい内容を口頭発表できるように整理しておくこと。前期で卒論テーマを確定し、夏休み前に基礎調査等（情報収集を含む）を終了する。なお、安次富ゼミでは量的調査を実施する学生が多いが、調査対象者は原則学生とする。したがって、調査実施は前期終了までに実施するとし、夏休み中に調査結果を集計分析し、粗原稿でよいので文章を完了させることが望ましい。後期には随時個人毎に執筆指導を行う。

【評価方法】

完成した卒業論文を客観的な評価指標とし、中間口頭発表、論文作成過程、ゼミ参加時態度などを考慮して総合評価する。なお、卒業論文の評価は、主査：指導教員 副査：他教員1名の計2名による。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献】

随時紹介する。

卒業演習

担当教員 小柳 正弘

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	17	研究経過報告（1）
2	研究テーマと研究計画概要の報告（1）	18	研究経過報告（2）
3	研究テーマと研究計画概要の報告（2）	19	中間発表（1）
4	研究計画発表（1）	20	中間発表（2）
5	研究計画発表（2）	21	中間発表（3）
6	研究計画発表（3）	22	中間発表（4）
7	研究計画発表（4）	23	個別指導
8	個別指導	24	個別指導
9	個別指導	25	個別指導
10	個別指導	26	個別指導
11	個別指導	27	卒業論文発表会（1）
12	個別指導	28	卒業論文発表会（2）
13	個別報告と指導（1）	29	卒業論文集製作（1）
14	個別報告と指導（2）	30	卒業論文集製作（2）
15	個別報告と指導（3）	31	まとめ
16	個別報告と指導（4）		

【履修上の注意事項】

発表と個別指導を中心とする。演習時には活発な議論を求める。

【評価方法】

論文作成の過程と最終的に提出された論文を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

卒業演習

担当教員 比嘉 昌哉

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

「卒業演習」では、4年間の集大成として卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて、文献検索、資料収集、調査等を行い、夏季の中間発表を経て、最終的に卒業論文をまとめる。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション：年間のスケジュールを確認
①「卒論の書き方」・各自テーマ決定（～5月中旬）
②個別指導（6月～）
③中間報告会（8月中旬）
④仮提出【ゼミ】（10月下旬）
⑤本提出【社会福祉専攻全体】（12月中旬）

2. 各自テーマの報告
3. 先行研究等の文献・資料収集
4. 個別の進捗状況の報告
5. 個別指導
6. 中間報告会
7. 最終報告会

【履修上の注意事項】

個別指導が主になるが、必要に応じて全体指導を行う。卒業論文は一朝一夕にできあがるものではなく、これまでの学びの積み重ねで作られるものである。そのため、普段から自身のテーマに関心を持ち資料収集を行うなど、より積極的・主体的に取り組むことが望まれる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況および最終的に提出された論文と論文作成への取り組み（そのプロセス）を総合的に判断して評価する。一方、「卒業研究発表」（卒業論文：4単位）は、担当教員が主査、他の教員が副査となって論文審査を行い、最終評価を与える。

【テキスト】

特になし。

【参考文献】

白井利明・高橋一郎(2008)：『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。
その他は、必要に応じて適宜紹介する。

卒業演習

担当教員 桃原 一彦

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理・分析、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。前期は、6月まで企画・設計、情報や素材の収集に関するレクチャーをゼミ全体に対して行うが、7月以降は方法論の検討やデータ・素材の収集に関する手順を個別面談方式で議論していく。夏期休暇中～10月上旬までにデータや素材の収集を完了し、後期はデータや素材の整理と論文または成果物の作成に集中してもらう。なお、後期も個別面談方式を中心とし、集中的に指導する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	年間のスケジュールと諸注意	17	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）
2	各自卒業研究テーマ候補の報告	18	同上
3	各自卒業研究テーマの確定と発表	19	同上
4	同上	20	補足的な収集に関する指導
5	同上	21	データおよび素材の整理方法の指導
6	同上	22	論文または成果物の内容構成の再検討
7	卒業研究の企画・設計に向けての指導	23	個別の進捗報告と指導
8	先行研究の収集に関する指導	24	同上
9	研究の方法論に関する指導	25	同上
10	構成内容などに関する指導	26	同上
11	データおよび素材収集に関する指導	27	ゼミ全体での中間発表
12	同上	28	卒論および成果物の仮提出と修正指導
13	個別の進捗報告と指導	29	卒論および成果物の本提出
14	同上	30	卒業論文および卒業研究集の作成
15	同上	31	補講および補足的指導
16	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）		

【履修上の注意事項】

「卒業演習」（4単位・専門基礎必修）と「卒業研究発表」（4単位・専門選択）は異なるので注意する。演習は通年の4年次ゼミのことを意味し、「卒業研究発表」は教員指導のもと卒業論文または卒業研究成果物を作成し、指定期日に所定の場所に提出し「可」以上の評価を与えられた者にだけ単位が認められる。また、卒業論文または卒業研究成果物の作成要領、提出期日および提出場所等は前期に掲示板に掲示されるので、ちゃんと確認すること。

【評価方法】

「卒業演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業研究発表」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって審査を行い、評価が与えられる。評価は、形式的なルール、研究上の意義（先行研究等との関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、データおよび素材の収集方法（計画、実行内容、妥当性）、整理・分析の方法（適切な手順・方法等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）をもって評価する。

【テキスト】

テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介していく。

卒業演習

担当教員 保良 昌徳

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習では、本学人間福祉学科で学んだ学問的な成果をふり返り、学生各自がその成果をもとに自分の課題を設定し、計画に従って研究等に取り組む。卒業研究は、卒業論文の他に、自らの自主的な課題を設定することができる。ただし、以下のすべての条件を満たすことが必要である。

- ① クラスで計画や手順が確認されたものであること。
- ② 本人が責任を持って取り組んだものであること。
- ③ 本人が直接関わったものであること。
- ④ 創造性・先駆性があること。
- ④ 学生としての品格を逸脱しないものであること
- ⑥ 社会的な評価が得られ(た)るものであること。

【授業の展開計画】

本演習は、以下のような計画で取り組む。

前期

- ・各自の課題の明確化
- ・個別指導
- ・課題の取り組み計画の検討・明確化
- ・「卒業課題計画書」の作成と提出
- ・取り組みについての「中間発表会」
- ・夏期休暇中の取り組み計画書の提出
- ・修士論文中間報告会への参加

後期

- ・夏期休暇中の取り組み状況の報告書提出
- ・中間報告会
- ・個別指導
- ・最終報告会の計画・開催
- ・『卒業課題報告書』の作成

【履修上の注意事項】

1. 取り組みの段階を明確に理解し、余裕を持って課題に取り組むこと。
2. 期日を超えた課題等の変更はしないこと。
3. レポート等は期限・分量を守ること
4. レポート等の書式・引用等は厳守すること。

【評価方法】

1. 出席・欠席は重視する。(欠席4点、遅刻2点減点)
2. レポート等の提出期限・条件等は重視する。(不提出4点、遅れ2点減点)
指定された書式、分量に満たないものは不提出と見なす。
3. 無断引用が発覚した場合のレポート等は評価の対象としない。
最終提出物に無断引用・使用があった場合は「不可」とする。

【テキスト】

必要に応じて指定または資料等を配布する。

【参考文献】

必要に応じて指定する。

卒業演習

担当教員 知名 孝

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

大学4年間の学びにひとつのパンクチュエーションを与えるものとして卒業論文執筆がある。論文執筆作成にかかる作業を行っていきなかに、自らの大学での学びを振り返り、論文という形でつくりあげる作業をすすしていく

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

自らの学習を振り返り、自分が論文としてとりあげたいテーマについて決めておくこと。ある程度の論文についての構想を持っておくこと。

【評価方法】

中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

【テキスト】

ゼミのなかで指定する。

【参考文献】

地域福祉の理論と方法

担当教員 -上地 武昭

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

○地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。○地域福祉の主体と対象について理解する。○地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。○地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。○地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	地域福祉の基本的考え方・概念と範囲	17	地域における社会資源の活用・調整・開発の
2	地域福祉の理念・定義	18	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
3	地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁	19	質的な福祉ニーズの把握方法と実際
4	護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）	20	量的な福祉ニーズの把握方法と実際
5	地域福祉の発展過程	21	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
6	地域福祉における住民参加の意義	22	地域トータルケアシステムに必要な要素
7	地域福祉におけるアウトリーチの意義	23	地域トータルケアシステムの構築方法と実際
8	地域福祉の主体と対象について理解する	24	地域における福祉サービスの評価方法と実際
9	社会福祉法（地域福祉の推進）	25	ストラクチャー評価、プロセス評価、アウト
10	行政組織と民間組織の役割と実際	26	ストラクチャー評価、プロセス評価、アウト
11	地方自治体、社会福祉法人、特定非営利活動	27	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域
12	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域	28	（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活
13	専門職や地域住民の役割と実際	29	地域福祉の主体と対象について理解する。
14	社会福祉士、社会福祉協議会の地域福祉活動	30	地域福祉の推進方法について理解する。
15	ネットワーキング（多職種・多機関との連携	31	試験・講義評価・地域福祉の推進課題につい
16	ネットワーキング（多職種・多機関との連携		
16	地域における社会資源の活用・調整・開発		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席30%、提出物30%、試験40%で評価する。

【テキスト】

中央法規『地域福祉の理論と方法』

【参考文献】

知覚心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため本講は、さまざまな感覚・知覚刺激の観察や簡単な実験などの体験を行いながら進める。さまざまな知覚体験をきっかけに、人間が外界（身の周りの環境）を理解する基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組みについて興味・関心を持ち、心理学では知覚についてどのように捉え研究しているのか理解して欲しい。日頃は意識しない”知覚というこころの働き”について目覚めてほしい。

【授業の展開計画】

この講義は、感覚・知覚実験および認知的実験を体験し、その結果について実験グループやクラス全体でディスカッションを行い、知覚の働きについて考えるという形式で進める予定である。実験の材料によって1～2週かけて行うものや、3～4週に渡る場合もある。とり上げる実験と詳細な講義計画については、初回の講義時に説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・実験グループづくり
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①
3	実験①盲点の測定・視野測定
4	実験②五感を意識するワーク
5	実験③残像と恒常性
6	実験④色覚①
7	実験⑤色覚②
8	実験⑥視野融合
9	実験⑦注意①
10	実験⑧注意②
11	実験⑨重量弁別①
12	実験⑩重量弁別②
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性
15	もういちど知覚とは何か・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

- ・心理学概論もしくは共通科目の心理学Ⅰを履修済みであると理解しやすい。様々な実験器具や材料を使用した小グループでの実験を行うため、希望者が多い場合、心理カウンセリング専攻学生を優先して登録を行う。
- ・知覚心理学では、「自分で体験すること」「自分で気づいて・発見すること」が大切なので、授業や実験に自ら積極的に取り組もうとする好奇心と意欲のある学生の受講を希望します。

【評価方法】

出席、小実験への参加、課題レポートの提出などを総合して評価する予定

【テキスト】

特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介する

低所得者に対する支援と生活保護制度

担当教員 一金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

国外・国内を問わず社会経済状況は不安定な様相を呈しているが、これまでも、様々な生活問題は、社会構造、生活構造に大きく左右されてきた。貧困、低所得により困窮する市民生活に対して、「公的扶助」を中心とした社会保障・社会福祉制度がセーフティーネットとしての役割を果たしてきた歴史的展開、また「生活保護制度」の具体的な実施方法について学習する。制度の実施に当たって、ソーシャルケースワーカーの役割、支援の在り方について、多くの事例を提示する等により考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	公的扶助の概念及びその意義と役割について
2	社会情勢と貧困・低所得者の生活問題について
3	公的扶助制度の歴史(海外、日本)及び近年の動向
4	生活保護制度の仕組み(原理、原則)について
5	同 (保護の種類)、(権利・義務について)
6	生活保護の財源について
7	生活保護基準の算定方法について
8	生活保護動向について(1)
9	生活保護動向について(2)
10	低所得者対策(生活福祉資金貸付制度)
11	ホームレス対策について
12	福祉事務所及び関係機関の役割について
13	ケースワークの実際とワーカーの役割について
14	生活保護における自立支援の在り方について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座「低所得者に対する支援と生活保護制度」第2版 中央法規

【参考文献】

都市社会学 I

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解釈する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。Iでは、近代ヨーロッパからアメリカまでの古典的都市社会学を取り上げ、またブラック・ソシオロジーによる都市研究について言及する。さらに、理論的学習のみならず都市の空間構造、都市とエスニシティ、都市と貧困、都市と差別など、具体的な諸問題を取りあげて学習していくことを目的とする。

【授業の展開計画】

講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらおう。グループ学習は主にワークショップ形式をとる。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学への招待
2	近代都市への着目—マックス・ヴェーバーの都市類型論—
3	近代都市と博覧会①—「近代」と博物学的まなざし—
4	近代都市と博覧会②—「見世物」都市から「博覧会」都市へ—
5	シカゴ学派都市社会学①—アメリカ合衆国の隆盛とシカゴの都市化—
6	シカゴ学派都市社会学②—シカゴ都市社会学の誕生と「人間生態学」—
7	シカゴ学派都市社会学③—バージェスの「同心円地帯説」—
8	シカゴ学派都市社会学④—ワースの「アーバニズム論」—
9	都市社会を考えるワークショップ①
10	アメリカ都市の諸相—矛盾と葛藤—
11	ブラックソシオロジーの展開①—デュボイスの社会学—
12	ブラックソシオロジーの展開②—デュボイスとシカゴ学派—
13	ブラックソシオロジーの展開③—ブラックソシオロジーの<インサイダー教義>問題—
14	ブラックソシオロジーの展開④—ブラックソシオロジーの現在—
15	都市社会を考えるワークショップ②
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。また、個人およびグループによる学習課題を取り入れるので、積極的な取り組み姿勢も評価に加味する。

【評価方法】

出席状況（20%）、個人またはグループによる学習課題の提出と内容（20%）、期末レポート課題（60%）の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介していく。

都市社会学Ⅱ

担当教員 桃原 一彦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会的に解釈する学問である。つまり、都市空間のありようが私たちの生活、社会関係、行為や心的性向にどのような影響を与えているのかについて理解するものである。Ⅱでは、日本における近代化と都市化の諸相と都市社会学の展開、さらに集合的消費の問題について考える。理論的には、日本の地域研究やシカゴ学派などの古典的な都市社会学を批判的に展開し、戦後日本の都市空間と都市生活の特性と諸問題について考える内容とする。集合的消費については、大型ショッピングモールを中心に、＜テーマ化する都市＞の問題と可能性を学生自ら模索するような経験的学習の講義内容となる。

【授業の展開計画】

講義の本題に入ると基本的に教員からの「発話」が中心となるが、適宜、受講生個人またはグループで学習してもらおう。グループ学習は主にワークショップ形式をとる。

週	授 業 の 内 容
1	都市社会学Ⅱへの招待
2	日本における近代的都市化①—1920年代を中心に
3	日本における近代的都市化②—1950年代～1960年代、1980年代～90年代を中心に
4	日本における都市社会学の展開①—結節機関論と「正常人口の正常生活」概念
5	日本における都市社会学の展開②—第三の空間論とコミュニティ研究
6	日本における都市社会学の展開③—エスニシティ研究と世界都市論の台頭
7	日本における都市社会学の展開④—新都市社会学と資本・国家・空間の権力論
8	都市社会を考えるワークショップ①
9	郊外と都心に共通する今日の特徴—集合的消費の概念をめぐって
10	テーマ化する都市①—博覧会からテーマパークへ
11	テーマ化する都市②—ディズニーランドの空間的特質
12	テーマ化する都市③—都市空間「テーマ化」とその諸問題
13	テーマ化する都市④—ショッピングモールの異質多様性と公共圏
14	消費都市の限界と可能性—「密猟」という視点
15	都市社会を考えるワークショップ②
16	予備日

【履修上の注意事項】

本講義は毎回出席確認を行う。また、個人およびグループによる学習課題を取り入れるので、積極的な取り組み姿勢も評価に加味する。

【評価方法】

出席状況（20%）、個人またはグループによる学習課題の提出と内容（20%）、期末レポート課題（60%）の構成比で総合的に評価する。

【テキスト】

テキストはとくにないので、適宜参考文献を紹介する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介していく。

動作法

担当教員 平山 篤史

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

動作法は心理療法の一つである。自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させるものである。姿勢や動作の改善や、ストレスマネジメントなど様々な対象者への心身の援助に効果を発揮している。この授業では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法として活用することを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション ー相手の身体に触れることに関する諸注意ー
2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～
3	動作法による援助の基礎
4	動作法の援助の考え方と基本
5	リラクセーションの見方、考え方
6	リラクセーションの実技 軀幹 1
7	リラクセーションの実技 軀幹 2
8	リラクセーションの実技 肩を中心としたリラクセーション
9	リラクセーションの実技 股関節を中心としたリラクセーション
10	リラクセーションの実技 総合
11	動作法の臨床事例
12	タテ系動作課題について
13	座位姿勢の実技①
14	座位姿勢の実技②
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

本授業では催眠や動作法について、実習を通して、受講者が互いに援助者体験・被援助者体験をする。相手のところに深く関わる技法であるため、実技では相手を思いやり、相手のところを踏みにじらないことが絶対の条件である。そのため、実技の際にこれらを犯す者は動作法を行う資格に欠けると判断し、受講を取り消すことがある。実技の際には、床に座ることや横になることが多いので、動きやすい服装で受講すること。

【評価方法】

出席、受講中の態度や実技実習への取り組み、毎回のミニレポートなどを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

「動作療法」成瀬悟策 誠信書房
 「姿勢のふしぎ」成瀬悟策 講談社

認知心理学

担当教員 前堂 志乃

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、認知心理学の主要なテーマである、知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識などについて、認知心理学の研究の知見について、文献を読みワークを行うことで理解していく。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、考え、ディスカッションをしていく。認知心理学の知見を日常生活と結びつけながら、ひとの認知過程について具体的に理解していくことを目指す。

【授業の展開計画】

講義の初回には、より詳細なシラバスを配布し説明する。クラスの状態によっては講義の計画が変更になる場合もある。その際は、新たなシラバスを再配布し説明する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	認知とは・認知心理学とは
3	日常における認知過程
4	知覚①
5	知覚②
6	記憶①
7	記憶②
8	注意と意識①
9	注意と意識②
10	認知と情動
11	言語
12	思考・創造性
13	問題解決・考える技術①
14	問題解決・考える技術②
15	認知とは・まとめ
16	

【履修上の注意事項】

授業では、「ものごと認識すること、理解すること、考えること」というこころの働きと日常における「認知と感情と行動の関係」について、考えたり、話し合ったりする機会をできるだけ持ちたい。主体的に、「考えること」を楽しんでみたい学生の参加を希望する。

【評価方法】

出席確認：ワークシートに講義に関するコメント・感想の記入を課し平常点とする（出席確認も兼ねる）。
 予習・復習ワーク：毎回の講義のテーマに関連する課題を予習・復習ワークとして課す。
 期末課題：学期末にポートフォリオとレポート課題を課す。
 平常点、予習・復習ワーク、期末課題を総合して評価する予定である。

【テキスト】

- ・テキストは、初回の講義時に紹介する予定である（テキストは毎回の講義に使用するため購入すること）
- ・その他、必要な資料を授業時に配布する予定である

【参考文献】

授業時に適宜配布する。

発達心理学 I

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学 I（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史概説する
3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する
4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）
5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）
6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）
7	発達理論④：主要な理論について紹介する
8	胎児期：胎児期の発達の様子
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②
12	児童期：児童期の発達の様子
13	青年期①：青年期の課題①
14	青年期②： 〃 ②
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用を禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、講義中の途中退席を基本的に禁止。
- ・自己管理を適切に行ってください。
- ・質問や、申し出は適宜受け付けますので、先延ばしにせず意思表示を。

【評価方法】

レポートと、期末試験で評価する。
適宜、コメントを求める予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「(新版)発達心理学への招待(人間発達をひも解く30の扉) ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達心理学Ⅱ

担当教員 金武 育子

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史、主要な研究・研究者、重要な理論等を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する
2	発達理論①：主要な理論について紹介する
3	発達理論②：主要な理論について紹介する
4	発達理論③：主要な理論について紹介する
5	胎児期から青年期①：概観①
6	胎児期から青年期②：概観②
7	青年期：青年期の課題
8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題
9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応
10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題
11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応
12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題
13	発達課題について：まとめ
14	発達研究：展望と課題
15	まとめ
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・自分自身で自主的に考え、行動し、発達心理学の視点を身に付けてください。
- ・講義中の私語、携帯電話の使用を禁止。
- ・講義開始20分以上を経過しての入室、講義中の途中退席を基本的に禁止。
- ・自己管理を適切に行ってください。
- ・質問や、申し出は適宜受け付けますので、先延ばしにせず意思表示を。

【評価方法】

レポートと、期末試験で評価する。
適宜、コメントを求める予定である。

【テキスト】

前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版

【参考文献】

柏木恵子・古沢頼雄 「(新版)発達心理学への招待(人間発達をひも解く30の扉) ミネルヴァ書房
その他、講義中に適宜紹介する

発達臨床心理学

担当教員 財部 盛久

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は前期開講の障害児・者心理学を基礎として、学習障害、注意欠陥/多動性障害、自閉症スペクトラム障害、知的障害を主な対象とした発達障害の心理臨床について概説をする。おもな授業内容は発達障害の理解と支援に際しての基礎理論、そして心理臨床としてコミュニケーション支援、日常生活支援の実践そして親支援に関するテーマ等を取り上げる。

【授業の展開計画】

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：発達障害概論
- 第3回：発達障害支援の基礎理論（1）
- 第4回：発達障害支援の基礎理論（2）
- 第5回：発達障害支援の基礎理論（3）
- 第6回：発達障害の支援理論（1）
- 第7回：発達障害の支援理論（2）
- 第8回：発達障害と心理臨床（1）
- 第9回：発達障害と心理臨床（2）
- 第10回：発達障害と心理臨床（3）
- 第11回：発達障害と心理臨床（4）
- 第12回：発達障害と心理臨床（5）
- 第13回：発達障害と心理臨床（6）
- 第14回：発達障害と心理臨床（7）
- 第15回：まとめ
- 第16回：試験

【履修上の注意事項】

授業への参加状況、課題に対する取り組みおよび試験により総合的に評価する。授業中、ただ黙って座っているだけでは評価の対象にはならないので、そのことは了解しておいて欲しい。特に授業に出席する際は、予習課題を十分に理解し、講義に臨んで欲しい。

【評価方法】

授業の予習レポートおよび学期末試験の成績により総合的に評価する。基本的には、予習レポート30%、学期末試験70%の比重である。

【テキスト】

資料を適宜配布するので特にテキストの指定はしない。授業の内容を深く理解するためには以下の図書は参考になる。

【参考文献】

1. 小林隆児 よくわかる自閉症「関係発達」からのアプローチ 法研 ¥1,700+税
2. 宮尾益知 発達障害をもっとよく知る本 教育出版 ¥1,900+税
3. 麻生武・浜田寿美男 よくわかる臨床発達心理学 ミネルヴァ書房 ¥2,600+税
4. 発達障害の子どもたち 杉山登志郎著 講談社現代新書 ¥720+税

犯罪心理学

担当教員 山入端 津由、金城 正典

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

犯罪や非行を定義した上で、犯罪や非行を理解する理論（モデル）、特に犯・非行の心理学的メカニズムについて学ぶ。これらを踏まえて、わが国の公的統計資料に現れた犯罪・非行事情の理解や、人々から感心がもたれた重大な非行や犯罪事例についても理解を深める。さらに、犯罪や非行のある人の処遇（教育）はどのように行われているか。また、犯罪や非行のある人々の立ち直り（更生）については、どのような現状にあるのか。以上の課題について討議し、理解を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 犯罪心理学とは
2	わが国の犯罪動向
3	犯罪・非行の諸理論
4	犯罪・非行の原因
5	重大少年犯罪 1
6	重大少年犯罪 2
7	非行・犯罪からの立ち直り
8	沖縄の少年非行
9	ビデオ「少年院」（NHK）
10	犯罪の個人及び環境要因論
11	暴力犯罪
12	ホワイトカラー犯罪
13	凶悪犯罪 1（永山則夫）
14	凶悪犯罪 2（光市事件）
15	凶悪犯罪 3（宅間守）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席，リアクションペーパーのコメントや質問，ミニレポート，期末試験等を総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

福祉英語 I

担当教員 ーロビソソ サイソ

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

To cover basic English from a communicative perspective, focusing on partnerwork where students will talk about themselves and ask and answer questions.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Orientation, basic self-introductions - introduction, listening
2	Basic self-introductions - structured speaking practice, free speaking practice
3	Personal Information - introduction, listening
4	Personal Information - structured speaking practice
5	Personal Information - free speaking practice.
6	Can and Can't - introduction, listening
7	Can and Can't - structured speaking practice
8	Can and Can't - free speaking practice.
9	Time - listening, structured speaking practice
10	Daily Activities - listening, structured speaking practice
11	Daily Activities - free speaking practice.
12	Rooms - introduction, listening
13	Rooms - structured speaking practice, free speaking practice
14	Exam Preparation
15	Exam
16	Exam feedback, final speaking activity

【履修上の注意事項】

Regular attendance is extremely important for this course, as is timely completion of the assignments.

【評価方法】

Students will be assessed based on a final speaking exam.

【テキスト】

Students will use Fifty Fifty Book One, available from the university bookshop

【参考文献】

福祉英語Ⅱ

担当教員 ーロビンソン サイモン

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

Student's will continue to develop their ability to speak in English about topics relating to themselves and their lives. They will also begin to write short English essays.

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Talking about the past - introduction, listening
2	Talking about the past - structured speaking practice
3	Talking about the past - free speaking practice
4	Talking about the past - short presentation
5	Talking about the future - introduction, listening
6	Talking about the future - structured speaking practice
7	Talking about the future - free speaking practice
8	Talking about people - introduction, listening
9	Talking about people - structured speaking practice
10	Talking about people - free speaking practice
11	Talking about families - introduction, listening
12	Talking about families - structured speaking practice
13	Talking about families - free speaking practice
14	Exam preparation
15	Exam
16	Exam feedback and comments, final speaking activity.

【履修上の注意事項】

【評価方法】

Students will be assessed on their presentations and final speaking.

【テキスト】

Fifty Fifty Book One, available from the university bookshop

【参考文献】

福祉行財政と福祉計画

担当教員 金城 鍛

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

従来の福祉実践は、国が立案する社会福祉制度の枠組みに基づいて実施されてきたが、1990年代以降の市町村を中心とするサービス提供が展開されるなど実施主体が幅広い参入が促進されるようになった。こうした社会福祉基礎構造改革後の動向についてまとめるとともに、社会福祉制度の基盤について学習、財政の動向及びこれらの具体的な実施計画である福祉計画の仕組み、実態についてほりさげていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	福祉とは、社会福祉とはについて考える。
2	社会福祉制度の展開過程について
3	国と地方自治体の関係、行財政改革の動きについて
4	社会福祉基礎構造改革について
5	福祉財政について(1)
6	同 (2)
7	福祉専門機関とその役割
8	相談体制と専門職の役割
9	福祉計画の目的・意義について
10	各福祉計画の概要について
11	福祉援助の現場と福祉計画の検証(1)
12	福祉援助の現場と福祉計画の検証(2)
13	福祉計画における住民参加の在り方について(1)
14	福祉計画の評価について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で定期する課題についてのレポート及び期末テストの結果による。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座 第10巻「福祉行財政と福祉計画」第2版 中央法規

【参考文献】

福祉サービス組織と経営

担当教員 神谷 牧人

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会福祉施設・福祉サービス組織と経営の基本的知識

【授業の展開計画】

社会福祉は措置時代から利用者契約時代へと変化している。その根底には個の時代という認識がある。社会福祉基礎構造改革や介護保険制度・支援費制度の導入により社会福祉施設・福祉サービス組織を取り巻く経営環境は大きく変化している。少子超高齢化社会に向かい子どもおよび老人福祉等の需要が一段と高まっているが、国も地方自治体の財政も逼迫している。そのような財政環境のなかで、経営基盤を確立し、利用者へのサービスの管理の充実と共に在宅福祉サービスの提供、家族再生への支援など福祉施設の社会化、福祉施設・福祉サービス組織の社会資源化が叫ばれている。従ってより高度な法人・施設等の経営が求められている。本講義では、その基本的・実践的知識を学ぶ。

《後期》

- 社会福祉施設の体系と制度
- 社会福祉施設経営と社会福祉法人の課題
- 社会福祉施設・福祉サービス組織におけるサービス管理、財政管理、人事管理（人材育成）
- 利用者のニーズとサービス管理～高齢化介護施設等を素材として～
- 社会福祉施設・福祉サービス組織と地域社会
- 経営環境の変化とその対応

【履修上の注意事項】

【評価方法】

講義の中で指示

【テキスト】

教員が講義資料作成

【参考文献】

講義資料の中で指示

福祉と倫理

担当教員 大城 信哉

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講座は福祉もしくはその関連領域を志す人を主たる対象として、福祉にかかわる幾つかの倫理学的問題を提示し、それらを検討することで福祉についての理解を深めることを目的とする。たとえば社会福祉をあまり重要でないと考える立場があるが、福祉を学ぶ者はまずそのような考えをひとつの挑戦として受けとめ、検討してみる必要があるだろう。つづいて福祉と倫理とを有機的に関係づけるために、典型となりうるいくつかの事例を取り上げて検討する。これを受講者諸君にとっても講座担当者にとっても自分の問題と受けとめられるよう、できるだけ具体的に考えてみることにしたい。本講座が受講者諸君にとって有意義なものとなることを祈っている。

【授業の展開計画】

予定は以下のとおりだが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか聞いたら、ある程度聞く用意がある。希望があればぜひ教えてほしい。

週	授 業 の 内 容
1	講義方式など受講者諸君との合意作り。
2	社会にとっての福祉の意味を考えてみる。
3	福祉は社会成員の自助努力の意欲を奪うか。
4	功利主義的自由主義について。
5	あらためて、社会と福祉の意味を考える。
6	福祉についての倫理学的視点を検討する。
7	生きることと人間であることについて。
8	ひとりひとりのかけがえのなさについて。
9	区別と差別について考える。
10	自立ということについて考える。
11	人の死について考える。
12	職業としての福祉について考える。
13	福祉に必要な技能的資質と倫理的資質。
14	社会と福祉のあるべき関係についての再検討。
15	新たな視点と理解が得られたらどうか。
16	テスト：楽しめるように。

【履修上の注意事項】

受講者の人数にもよるが、こちらからも諸君に質問する。活発な議論となることを望む。なお、評価方法については厳正であるよう努めるが、講義の時間は諸君と楽しく共有したいとも願っている。そのためにもぜひ講義には積極的に参加してほしい。

【評価方法】

最終回に試験をするつもりだが、これも第1回で他の希望が出たらそれも考慮する。出席も取るが、そのうえでの受講者の努力を適切に評価できるように努める。

【テキスト】

使用しない。資料は講義中に適宜配布する。

【参考文献】

必要に応じて教室で指示する。

福祉レクリエーション技術 I

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

レクリエーションは、人と人との交流、心身の健康づくりを目的とした活動である。この授業では、コミュニケーション・ワークの技法、さまざまなレクリエーション財（ゲーム、ダンスをはじめ、さまざまなアクティビティ）を活用したレクリエーション支援を学びます。「レクリエーション・インストラクター」（資格）としての基礎的技能を身につけます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業内容の確認）
2	アイスブレイキング ゲーム&レクダンス
3	〃 〃
4	コミュニケーションゲーム&レクダンス
5	〃 〃
6	〃 〃
7	目的にあわせたレクリエーション・ワーク
8	対象にあわせたレクリエーション・ワーク
9	演習 1
10	演習 2
11	演習 3
12	レクリエーション・リーダーシップトレーニング（1泊キャンプ）
13	〃 〃
14	〃 〃
15	まとめ
16	評価（実技テスト）

【履修上の注意事項】

「レクリエーション理論」とセットで履修すること。

※「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指す科目である。

【評価方法】

実技テスト（60%）、授業への取組（20%）、出席状況（20%）

【テキスト】

『レクリエーションゲーム・全集』日本レクリエーション協会監修 ¥1,000

『レクリエーション支援の基礎』「レク理論」で使用しているテキストと同じ。

【参考文献】

『福祉レクリエーション援助の方法』（公）日本レクリエーション協会監修

『福祉レクリエーション援助の実際』（公）日本レクリエーション協会監修

福祉レクリエーション技術Ⅱ

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

レクリエーションは、人と人との交流、心身の健康づくりを目的とする活動である。この授業では、レクリエーション支援の応用技術を身につけることを目的とする。※下記の授業計画の外に、地域の「レクリエーション行事」に2回以上参加する。「レクリエーション・インストラクター」の資格取得を目指す科目である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業内容の確認）
2	ホスピタリティ トレーニング
3	ウチナーグチ（方言）によるコミュニケーション技法
4	〃 〃
5	コミュニケーション・フォークダンス
6	〃 〃
7	沖縄の踊り
8	〃
9	素材・アクティビティ収集・整理
10	遊びを創る（グループ演習）
11	〃（発表）
12	現場実習（事業参加）報告
13	楽しい集いの企画
14	〃（展開）
15	まとめ
16	評価（実技テスト）

【履修上の注意事項】

「福祉レクリエーション技術Ⅰ」履修後に登録する。
※「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指す科目である。

【評価方法】

実技テスト（60%）、授業への取組（20%）、出席状況（20%）

【テキスト】

『レクリエーション支援の基礎』（レク理論）で使用したテキストと同じ）

【参考文献】

『福祉レクリエーション援助の方法』（公）日本レクリエーション協会監修
『福祉レクリエーション援助の実際』 〃 〃

フレッシュマンセミナー

担当教員 知名 孝

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

【授業の展開計画】

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するもので授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

【履修上の注意事項】

調べ学習、発表、グループワーク、ボランティア実習などさまざまなゼミ活動を行っていく。

【評価方法】

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

【テキスト】

それぞれの授業のなかで紹介していく。

【参考文献】

フレッシュマンセミナー

担当教員 桃原 一彦

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。

【授業の展開計画】

まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑うものも多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。

また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。

【履修上の注意事項】

学年全体での合同ゼミも含め、毎回出席確認を行う。また、5月に行われる新入生一日合同研修には必ず出席すること。

【評価方法】

全体を100点満点とした場合、そのうち出席状況が60点、提出物の提出状況が20点、グループでのディスカッションやプレゼンテーションへの参加姿勢が20点という配点で評価する。

【テキスト】

テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

フレッシュマンセミナー

担当教員 岩田 直子

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。なお、後期開講の「基礎演習」は「フレッシュマンセミナー」と同じアカデミックアドバイザーのクラスに登録すること。

【授業の展開計画】

本科目は初年次学生向けのオリエンテーション的な内容であるため、大学生活や大学環境・サービス・仕組み等について理解していくことを内容に盛り込んでいく（図書館オリエンテーションも含む）。

また、人間福祉学科全体（心理カウンセリング専攻学生と）の合同プログラムも予定している。つまり、5月には福祉・心理専攻新入生合同の“一日研修”を本学体育館で開催し、福祉レクや心理学的ゲーム、障害者スポーツなど専攻の枠を越えて全体で体験し“仲間づくり”を目的としたプログラムを予定している。

さらに、専攻各教員をアカデミックアドバイザーとしたクラス別の個別ゼミにおいては、ゼミ担当教員の個性や専門領域に合わせた内容で大学生活の基礎作りを目指してプログラムを行う。その中では、アカデミックアドバイザーによる個別の履修指導やその他学生生活の相談等も行う。

【履修上の注意事項】

成績評価と関連するが、出席状況とプログラムへの取り組みが大きな目安となる。よって、出席と積極的な姿勢を心がけること。

【評価方法】

全体ゼミや個別クラスにおける出席状況を重視するが、個々のプログラムに取り組む姿勢等も考慮する。なお、最終評価は各アカデミックアドバイザーからの報告をもって行う。

【テキスト】

プリント等を配布する。

【参考文献】

とくにない、適宜プリント等を配布する。

保健医療サービス

担当教員 安次富 郁哉

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

わが国における保健医療サービスの基本的な構造と変遷を習得する。また、高齢社会を背景として、保健・医療・福祉の連携が重要であることから、その理論と実践について教授する。さらに、保健医療サービス提供に関わる専門職の役割と相互の連携のあり方、チームケアのあり方を理解する。

これからの社会福祉士に求められるのは、単に福祉の知識のみでなく、保健・医療の知識を含めた総合力であることを念頭において受講すること。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	保健医療サービスとその構成要素
3	保健医療サービス提供施設① 病院ってなに？診療所ってなに？
4	保健医療サービス提供施設② いろいろな種類の病院があるんだね。
5	保健医療サービス提供施設③ 老人保健施設
6	保健医療サービスの専門職とその役割① 医療従事者 社会福祉士
7	保健医療サービスの専門職とその役割② 医療ソーシャルワーカーって？
8	関連法規：医療法①
9	関連法規：医療法②
10	関連法規：介護保険制度と介護報酬
11	保健医療サービスの連携の理論と実践① 専門職との連携
12	保健医療サービスの連携の理論と実践② 専門職との連携
13	保健医療サービスの連携の理論と実践① 社会資源間連携
14	保健医療サービスの連携の理論と実践② 社会資源間連携
15	講義の振り返り
16	試験実施

【履修上の注意事項】

本講義は社会福祉士国家試験受験必修科目であると同時に、今後の保健・医療・福祉の連携のあり方、医療機関のみでなく地域全体で協働して一人の患者を支える「地域包括ケア」の概念が重要であることを念頭において受講すること。

第一回目の講義を欠席したものは登録を削除するので、かならず第一回目の講義オリエンテーションには出席すること。

【評価方法】

出席状況及び学期末に実施する試験、複数回実施する復習試験で総合的に評価する。不定期に実施する復習試験も期末試験同等に評価対象とする。

【テキスト】

「保健医療サービス」 社会福祉士養成講座（中央法規） *あたらしい改訂版のテキストを購入すること。第一回目の講義にアナウンスする。

【参考文献】

「国民衛生の動向」「厚生労働白書」「国民福祉の動向」「高齢社会白書」など。また、講義の中で随時紹介する。

ボランティア・NPO論

担当教員 千住 直広

対象学年 1年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

行政運営が厳しさを増す中、まちづくりへの多様な主体の参画、セクター毎の役割分担が求められています。そんな中、NPOを含めた市民の果たす役割はますます重要になってきています。私たちは、これからの社会において、個人個人の意思決定と行動と責任が求められますが、この講義ではそのためのノウハウ、実践論を学ぶことを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	NPO、ボランティアとは
3	社会の発展
4	社会学的想像力
5	社会のしくみ
6	市民社会とは
7	メディアリテラシー、リサーチリテラシー
8	地域を知る方法
9	地域を変える方法①
10	地域を変える方法②
11	地域を支える経済的しくみ①
12	地域を支える経済的しくみ②
13	地域に参加する技法（参加型グループ学習）①
14	地域に参加する技法（参加型グループ学習）②
15	
16	テスト

【履修上の注意事項】

私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。

【評価方法】

レポート、テスト、受講態度、出席状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

ボランティア演習

担当教員 砂川亜紀美 (23回) 酒井ひろ子 (7回)

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本演習は、①実践を通して体験的にボランティア活動の意義について理解するとともに、②実際にボランティア活動を実施するために必要なスキル（企画・設計・実践）を習得し、③将来ボランティアの活動を支援する専門家（ボランティアコーディネーター）として活動できる人材を育成することを目的とする。
 取り組み方法としては、ボランティアに関する情報収集・企画・設計を行い、ボランティア活動の実践へ繋げる。さらに、実践したことから得られた成果や課題等を明確にするために活動報告会及び報告書作成を行う。

【授業の展開計画】

*本科目は2名の講師によりオムニバス形式で開講する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期オリエンテーション	17	ノートテイク講座①
2	仲間づくりのためのアクティビティ	18	ノートテイク講座②
3	ボランティア活動の原則	19	ノートテイク講座③
4	ボランティアに関する情報収集①	20	ノートテイク講座④
5	ボランティアに関する情報収集②	21	ノートテイク講座⑤
6	ボランティアに関する企画・設計①	22	ノートテイク講座⑥
7	ボランティアに関する企画・設計②	23	ノートテイク講座⑦
8	ボランティアに関する企画・設計③	24	ボランティア活動の実践・体験講座③
9	ボランティア活動の実践・体験講座①	25	ボランティア活動の実践・体験講座④
10	ボランティア活動の実践・体験講座②	26	ボランティア活動の実践・体験講座⑤
11	ボランティアコーディネートについて①	27	活動のまとめ
12	ボランティアコーディネートについて②	28	活動報告会の準備①
13	大学内ニーズの発掘①	29	活動報告会の準備②
14	大学内ニーズの発掘②	30	活動報告会の実施
15	前期まとめ	31	振り返り
16	後期オリエンテーション		

【履修上の注意事項】

- ①グループ活動では、知識や経験を共有しあう場となるよう主体的に取り組むこと。
- ②各自、一年を通してボランティア活動に取り組むことが望ましい。
- ③福祉・ボランティア支援室などを活用し、ボランティアに関する情報を積極的に収集すること。

【評価方法】

授業への出席状況、小レポート提出状況、受講態度（課題に対する取り組みやグループ活動に対する積極性など）、ボランティア活動状況（活動報告書提出状況）、レポート提出等により総合的に評価する。

【テキスト】

「大学ノートテイク支援ハンドブック」日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク情報保障評価事業グループ
 編著 人間★社 2007

*その他、その都度資料等を配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床心理学 I

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学 I」においては、臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域
3. 臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準
4. 臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）
5. 臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）
6. 臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）
7. 臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）
8. 臨床心理学の基礎理論：発達理論（マラー、ウィニコットなど）
9. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）
10. 臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）
11. 臨床心理学的方法：心理療法 1（来談者中心療法・認知療法など）
12. 臨床心理学的方法：心理療法 2（箱庭療法・芸術療法など）
13. 臨床心理学的方法：心理療法 3（家族療法・短期療法）
14. 臨床心理学的方法：心理療法 4（家族療法・短期療法）
15. 臨床心理学的方法：まとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

各講義時に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅰ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学の学問的な位置づけと諸理論、技法について幅広く学ぶ。さまざまな心の問題について考え、臨床心理学としてどうとらえ、関わっていくのかについて紹介する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	臨床心理学とは
3	臨床心理学の実践
4	臨床心理学の理論と技法 (1) 精神分析療法、クライアント中心療法など
5	臨床心理学の理論と技法 (2) 認知行動療法ほか
6	臨床心理学の理論と技法 (3) 家族療法、コミュニティ心理学など
7	アセスメント (1) 検査法
8	アセスメント (2) 知能検査を中心に
9	発達障害 (1)
10	発達障害 (2)
11	臨床心理学の対象となる心の問題 (精神障害を中心に)
12	臨床心理学の対象となる心の問題 (家族関係、認知症など)
13	臨床心理学の研究活動 (実践に関する研究)
14	臨床心理学の社会的専門性 (諸領域にわたる心理援助、職業倫理)
15	これまでのまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 牛田 洋一

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害1：特徴について
3. 臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害2：対応について
4. 臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割
5. 臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析
6. 臨床心理学的方法：投影法1 P-Fスタディー
7. 臨床心理学的方法：投影法2 ロールシャッハ・テスト
8. 臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）
9. 臨床心理学的トピック1：治療的コミュニケーションの語用論
10. 臨床心理学的トピック2：短期療法と治療言語
11. 臨床心理学的方法：短期療法1（MRIアプローチ）
12. 臨床心理学的方法：短期療法2（BFTCアプローチ）
13. 臨床心理学的トピック3：青少年の薬物依存
14. 臨床心理学的トピック4：心と現代の脳科学
15. 全体のまとめ
16. 試験

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ」を受講していることが望ましい。
講義には学生として、また社会人としての常識ある態度で臨むこと。
自ら積極的に考えていくような受講態度を求める。

【評価方法】

授業への参加姿勢、試験、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜資料を配布する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床心理学Ⅱ

担当教員 大嶺 歩

対象学年 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床心理学Ⅱでは、臨床心理学Ⅰで紹介した理論や技法、心の問題についての理解をより深めるため、架空事例を取り上げて解説する。また、予防的観点からの取り組みについても紹介する。この講義を通して、対人援助の基礎や柔軟な視点を持つということについて学んでほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	青年期の課題について
3	自我の発達論について
4	検査法 (1) 質問紙法
5	検査法 (2) 投影法
6	発達障害 (大人のアスペルガー症候群)
7	学校臨床について
8	強迫性障害について
9	気分障害について
10	統合失調症について
11	人格障害について
12	依存症について
13	自殺予防の取り組み
14	解決志向アプローチ
15	まとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

どのテーマについても自主的に学び、深めようという積極的な態度を求める。

【評価方法】

出席、試験、コメントシートを総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

臨床面接法 I

担当教員 平山 篤史

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

乳幼児期から老年期までの各発達段階における心理臨床的援助の特徴、基本的な留意点を解説する。また、その発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。講義を通して、受講者が心理臨床の支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取る。

講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見る力、考える力を伸ばすことをねらう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	心理臨床的援助のモデル、心理臨床的援助の過程
3	正常と異常、自我の機能と病態水準
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）
5	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期・事例）
7	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期）
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～思春期・事例）
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期）
10	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期～後期・事例）
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）
12	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期・事例）
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）
14	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期・事例）
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。（同時履修は可能）

講義中の私語や携帯電話は厳禁。受講者参加型の講義形式をとるため、受講者には自ら積極的に考える態度を求める。毎回の講義の後に講義・ディスカッションでの感想を提出する。

抽選となった場合は、4年次より優先し抽選する予定である。

【評価方法】

出席状況・毎回の授業の感想、及び期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

講義のなかで適宜紹介する。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

臨床面接法Ⅱ

担当教員 井村 弘子

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

【授業の展開計画】

1. はじめに（臨床面接の技法）
2. クライエントの話
3. 感情の反射
4. 焦点づけ
5. クライエントの質問
6. カウンセラーの質問（1）
7. 話し手と聞き手
8. 対話分析
9. クライエントへの応答
10. カウンセラーの質問（2）
11. カウンセラーの質問（3）
12. ケース理解
13. カウンセリングの実際
14. 援助的応答（1）
15. 援助的応答（2）
16. 学期末試験

【履修上の注意事項】

授業では、ペアや小グループでのワークが中心になる。段階を踏みながら臨床面接技法を身につけていくので、遅刻や欠席は厳禁。最後まで主体的な態度・姿勢で出席できる学生のみ受講してほしい。

【評価方法】

毎回ワークシートを配布し、授業の最後に提出してもらう。出席状況（ワークシートの提出状況）、学期末試験を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回、資料とワークシートを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

レクリエーション理論

担当教員 一知念 一郎

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

労働時間の短縮や人の寿命が延びたことによって、人生の余暇時間が著しく増えた。余暇時間の活用やレクリエーションを取り込んだ新しいライフスタイルの構築こそ人生の生活課題といえる。高齢社会においては、レクリエーション支援、レクリエーション事業が社会的課題でもある。

この授業では、余暇やレクリエーションの意義を正しく理解し、現代社会における労働と余暇、生涯学習及びスポーツ、特に、社会福祉との関連においてレクリエーションの効用、レクリエーション支援、レクリエーション事業及びコミュニケーション・ワークについて学びます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業内容の確認）
2	これからの社会とレジャー・レクリエーション
3	レクリエーションとは
4	レクリエーション運動の歴史とその背景
5	レクリエーション支援
6	ライフスタイルとレクリエーション
7	高齢社会の課題とレクリエーション
8	福祉レクリエーションの内容
9	レクリエーション事業Ⅰ
10	レクリエーション事業Ⅱ
11	レクリエーション活動の安全管理
12	ホスピタリティの捉え方
13	アイスブレイキングの意義及びプログラミング
14	レジャー・レクリエーションの国際比較、余暇能力
15	まとめ
16	レポート発表

【履修上の注意事項】

「福祉レクリエーション技術Ⅰ」とセットで履修する。
 ※「レクリエーション・インストラクター」資格取得を目指す科目である。

【評価方法】

レポート提出及びプレゼンテーション（60%）、授業への取組（20%）、出席（20%）

【テキスト】

『レクリエーション支援の基礎』 ¥2,100 （公）日本レクリエーション協会編

【参考文献】

『福祉レクリエーション援助の方法』（福祉レク・ワーカーテキスト）（公）日本レクリエーション協会編
 『福祉レクリエーション援助の実際』（ ） （ ） （ ）